

2019年度文部科学省委託事業
専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト

「部活動指導員養成事業」

成果報告書

令和2年2月

学校法人三幸学園
東京リゾート&スポーツ専門学校

「成果報告書」刊行にあたって

実施委員長 昼間 一彦

2019年度文部科学省委託事業である「部活動指導員養成事業」の成果報告書をお届けいたします。

昨年度に引き続き、事業実施にあたり多方面より多くの貴重なご示唆を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

当学園では2018年度より本委託事業を展開しております。初年度は本学園の保育分野における文部科学省委託事業の実績や平成30年3月スポーツ庁より公表された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を基に各自治体において展開される部活動指導員養成の研修情報を集約し、社会人の学び直しに適した教材としての方向性を定め、「教育」「安全管理」「指導法」「マネジメント」の4領域からなる1ユニット5分ほどのe-ラーニング学習プログラム開発を教育機関や関連業界団体と進めて参りました。

教員の働き方改革の側面からも、専門スタッフの介入が喫緊の課題とされている分野において、公教育に携わる部活動指導員としての汎用性のある資質を身につけることを目的とし、社会人の学び直し観点での利便性を考慮した構成を特徴としています。

3か年事業の2年目にあたる今年度において、分科会①「開発」では、昨年度のモニター調査の結果を踏まえ、過去作成教材の見直しとして冒頭のシーン想定部分にナレーションの追加を行うなどよりケーススタディに近付けた再編成を行いました。また、新たに開発すべき教材として昨年度の概念レベルの内容を発展させた「ハラスメント」や「身体構造」などの発展的な内容を盛り込み、より部活動現場での指導をイメージできる技術レベルの教材作成へも進むことができました。分科会②「普及」では、参画委員の所属機関を中心とした現役の運動指導者や部活動指導への将来的な参加を目指す学生、現役の学校教員を対象に、開発した教材の受講者を募りました。受講者にはアンケート調査を実施し、教材受講により部活動指導員として活動するための有効な学びを得ることができたか、e-ラーニングによる学び直し講座の効果的な活用についてイメージが持てるかを指標に、教材の質向上に向けたご意見を頂戴いたしました。貴重なご意見を参考にさせていただき、引き続き部活動指導現場で結果を導きだせるプログラムの開発に努めてまいります。

本報告書では、事業全体の流れにのっとり、各分科会の活動ごとに実施成果を記載しております。本成果が部活動の現場で活用されることを願うとともに、事業の継続・発展にむけ、参画者一同、尽力する所存です。

最後に、関係各位の本事業に対しますご理解とご指導に厚く御礼申し上げますとともに、皆様の今後のご支援とご協力をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

構成機関

	構成機関（学校・団体・機関等）の名称	役割等	都道府県名
1	名古屋市教育委員会	開発	愛知県
2	東京未来大学	開発	東京都
3	立命館大学	開発	京都府
4	筑波大学	開発	茨城県
5	株式会社 R-body project	開発・普及	東京都
6	一般社団法人日本野球機構	普及	東京都
7	公益財団法人日本サッカー協会	普及	東京都
8	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	普及	東京都
9	一般社団法人日本フィットネス産業協会	普及	東京都
10	スポーツデータバンク株式会社	普及	東京都
11	株式会社ナズー	開発	埼玉県
12	札幌スポーツ&メディカル専門学校	普及	北海道
13	仙台リゾート&スポーツ専門学校	普及	宮城県
14	東京リゾート&スポーツ専門学校	普及	東京都
15	横浜リゾート&スポーツ専門学校	普及	神奈川県
16	大阪リゾート&スポーツ専門学校	普及	大阪府
17	名古屋リゾート&スポーツ専門学校	普及	愛知県
18	福岡リゾート&スポーツ専門学校	普及	福岡県

事業責任者

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
昼間 一彦	学校法人三幸学園 理事長	統括	東京都

事務局

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
西條 康介	学校法人三幸学園 事業開発部 部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園 主任	総括・編集	東京都

実施委員

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
昼間 一彦	学校法人三幸学園 理事長	総括	東京都
森岡 孝之	学校法人三幸学園 理事	総括	東京都
大橋 一夫	名古屋市教育委員会 生涯学習部 スポーツ振興課 指導主事	総括	愛知県
藤後 悦子	東京未来大学 こども心理学部 教授 こども心理専攻長	開発	東京都
中西 純司	立命館大学 産業社会学部 教授	開発	京都府
平岡 拓晃	筑波大学 体育系 体育センター 助教	開発	茨城県
井原 敦	一般社団法人日本野球機構 事務局長	普及	東京都
岩淵 健輔	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 専務理事	普及	東京都
鈴木 岳	株式会社 R-body project 代表取締役	開発	東京都
松村 剛	一般社団法人日本フィットネス産業協会 事務局長	普及	東京都
石塚 大輔	スポーツデータバンク株式会社 取締役	普及	東京都
真壁 潔	公益財団法人日本サッカー協会 理事	普及	東京都
西條 康介	学校法人三幸学園 事業開発部 部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園 主任	総括	東京都

分科会①【開発】

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
藤後 悦子	東京未来大学 こども心理学部 教授 こども心理専攻長	開発	東京都
大橋 恵	東京未来大学 こども心理学部 教授	開発	東京都
井梅 由美子	東京未来大学 こども心理学部 准教授	開発	東京都
中西 純司	立命館大学 産業社会学部 教授	開発	京都府
平岡 拓晃	筑波大学 体育系 体育センター 助教	開発	茨城県
荒井 秀幸	株式会社 R-body project コンディショニングディレクター	開発	東京都
西川 塁	株式会社ナズー アスレティックトレーナー	開発	埼玉県
高岡 昌弘	東京リゾート&スポーツ専門学校 副校長	開発・普及	東京都
西條 康介	学校法人三幸学園 事業開発部 部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園 主任	総括	東京都

分科会②【普及】

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
井原 敦	一般社団法人日本野球機構 事務局長	普及	東京都
嶋 理恵子	一般社団法人日本野球機構 野球運営本部 課長	普及	東京都
岩淵 健輔	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 専務理事	普及	東京都
松村 剛	一般社団法人日本フィットネス産業協会 事務局長	普及	東京都
石塚 大輔	スポーツデータバンク株式会社 取締役	普及	東京都
真壁 潔	公益財団法人日本サッカー協会 理事	普及	東京都
早坂 達	札幌スポーツ&メディカル専門学校 副校長	普及	北海道
寺澤 正典	仙台リゾート&スポーツ専門学校 副校長	普及	宮城県
高岡 昌弘	東京リゾート&スポーツ専門学校 副校長	開発・普及	東京都
三澤 麻衣	横浜リゾート&スポーツ専門学校 副校長	普及	神奈川県
和田 忍	名古屋リゾート&スポーツ専門学校 副校長	普及	愛知県
渡邊 慧	大阪リゾート&スポーツ専門学校 副校長	普及	大阪府
會田 隆太	福岡リゾート&スポーツ専門学校 副校長	普及	福岡県
西條 康介	学校法人三幸学園 事業開発部 部門長	総括	東京都
兼子 大次郎	学校法人三幸学園 主任	総括	東京都

【目次】

事業概要	1
I. これまでの取り組み	2
II. 2019年度事業計画概要	3
III. 事業実施体制	6
各分科会報告	7
I. 分科会①【開発】	
1.1 分科会① 概要	8
1.2 学習プログラム改修	8
(1) 2018年度事業実証より	
1.3 学習プログラム開発	9
(1) 学習プログラム内容の概要	
(2) e-ラーニングシステムの概要	
(3) e-ラーニング学習の流れ	
II. 分科会②【普及】	
1.1 分科会② 概要	20
1.2 実証	20
(1) 実証講座-1 (2018年度作成教材)	
(2) 実証講座-2 (2019年度作成教材)	
(3) 「リカレント教育プログラム運営モデルの検証」認定試行的実証	
総括及び将来の展望	44
成果報告会当日資料	46

事業概要

I. これまでの取り組み

東京リゾート&スポーツ専門学校では2018年より専門スタッフの介入による教員の働き方改革・部活動環境の整備を目的に、部活動指導員養成のための学習カリキュラム作成に関する文部科学省委託事業を展開してきた。

同じく文部科学省委託事業で平成26年から継続して社会人向け学びなおし事業に取り組んでいる姉妹校の東京こども専門学校の保育分野実績をもとに、社会人を対象としたリカレント教育に適した教材の仕様に関する情報収集や、既に全国都道府県・市区町村で実施されている部活動指導員向け研修の実態に関する情報収集と分析を中心に事業を開始した。

保育分野の先行検証結果より、社会人の学びなおしに適した教材の仕様について整理を行った。社会人の学びなおし講座における課題感として、「費用・時間・実用性」という点に意見が集中しており、費用に関しては委託事業内成果物という位置により、永続的に無償で公開となるため「時間・実用性」に着目した教材の仕様とした。「時間」については多忙な社会人が手軽に取り掛かることのできるものを目指し、短時間で学習ができるものとした。その中でも様々なデバイスで受講が可能である e-ラーニング形式を取り入れることで受講者の利便性と管理者の確実性とメリットを追求した。「実用性」においてはケーススタディを中心に据えた構成を基本とし、部活動指導員現場で起こりうる事例や、見落としがちな事例などを織り交ぜながら理解を深められるような内容とし、冒頭ではユニット単元での学習のねらいを提示することによって、学習の到達点の自己認識と学習意欲の向上を狙った構成としている。

各都道府県や市区町村での部活動指導員養成用の研修の調査より教材の内容について決定をした。部活動は学校教育活動の一環であるという前提から、学校現場の体制理解や教職員との連携の重要性、幼少期・思春期にみられる生徒の特性、背景にある家庭環境の理解など教育現場で活動をする素地を身に着ける「教育」、学校現場で想定される事故のリスクへの事前対応や、有事の際の対応フロー、怪我の発生時の基本対応などを学ぶ「安全管理」、現代に見合ったコーチングスキルで、個々の発育段階に応じた科学的な指導法を提供できるようになることを目指す「指導法」、個人・集団様々なシーンにおいて部活動指導員としてのマネジメント基礎を学ぶ「マネジメント」の4つの領域で構成をしている。

事業初年度である2018年度は教材作成において学習プログラムのイントロダクションを含む47のユニット（1本の動画）を作成した。作成したプログラムの中から先行して1部を現役のスポーツ指導者・スポーツ指導者を目指して専門学校へ通っている学生315名へ実証を行った。

II. 2019年度事業計画概要

2019年5月時点における事業計画書の抜粋を以下に記載する。

1. 講座の学習ターゲット・目指すべき人物像

想定する対象者は学校教育における部活動指導に関心のある者で、生徒の安全確保を第一に考え、適切な指導観点を持った部活動指導員として活躍できる人材の育成を目指す。

2. 事業を推進する上で実施する会議

会議名①	実施委員会		
目的	2つの分科会の作業進捗確認、成果目標および達成状況の確認		
検討の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業の目的及び全体像共有 ・ 各分科会及び委員の役割の明確化 ・ 事業計画書に沿ったスケジュールの確認 ・ e-ラーニング開設までの一連のプロセスのガイドラインとしての集約の方向性について 		
委員数	14人	開催頻度	1～2回

会議名②	分科会①【開発】		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前調査 ・ カリキュラム開発 		
検討の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発する教育プログラムについて詳細を検討 ⇒教育プログラムの仕様・学習内容・提供方法等 ・ 検討事項の本事業への活用・影響（想定） ・ 開発するカリキュラム・教材の方向性検討に活用 		
委員数	7人	開催頻度	2～3回

会議名③	分科会②【普及】		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関への協力要請 ・実証講座準備及び実施 		
検討の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実証講座の対象者選定及び受講依頼 ・受入時期及び期間 ・部活動及び分科会へのフィードバック等について受入機関と調整 ・自治体及び団体での普及および活用促進 ・開発した教育プログラムの改善点抽出 		
委員数	15人	開催頻度	2回

3. 社会人の学び直しを推進するために実施する工夫の概要

【学園の在校生・卒業生】

■リゾートアンドスポーツ専門学校：

全国9拠点、スポーツインストラクターを養成している専門学校（累計卒業生数は26,000人超）。在校生対象に部活動指導員の資格に対する取得希望を調査した際、68%が「取得したい」と回答し、資格取得に前向きな姿勢が伺われた（図1参照）。ここから卒業生のなかに、部活動指導員に対し高い関心を持つ社会人が多数いると想定される。

部活動指導員として活動するための資格が
制定された場合、取得したいですか（%）



<想定される具体的な連携内容>

- ・事前調査への協力要請

例) 専門学校卒業生の就職先・実習先でつながりのある企業・団体への回答依頼
及び後追い

- ・実証講座への協力

例) 上述した企業・団体への、実証講座の受講生受入依頼
対面講座実施のための教室提供

図1 部活動指導員への興味関心を問う質問への回答

【参画企業の既存の取り組み（一部）】

■スポーツデータバンク株式会社：

顧問教諭に代わる部活動指導員のマッチング・派遣の実績を有する企業。尚、取締役・石塚氏はスポーツ庁発表「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議」委員を任命されている。

<想定される具体的な連携内容>

- ・事前調査への協力

例) 対象者（学校の部活動顧問、すでに活躍している部活動指導員）への事前調査への回答依頼

- ・カリキュラム作成における助言及び教育プログラムの学習内容に資する情報の提供

例) 部活動指導員に要求される知見やノウハウ、受入校からよく聞かれる質問や要望等の情報提供

- ・実証講座における受講生受入機関調整・手配

例) 受講生・学校とのマッチング

【参画団体の既存の取り組み（一部）】

■公益財団法人日本ラグビーフットボール協会

■公益財団法人日本サッカー協会 等

競技普及、年代に応じた適切な指導の周知、安全対策・応急処置の周知など

<想定される具体的な連携内容>

- ・カリキュラム作成における助言及び教育プログラムの学習内容に資する情報の提供

例) 競技・年代に応じた効果的・効率的な指導方法についてのノウハウ提供、
チームビルディング、生徒対応に関する教材の事例提供、
安全対策・応急処置に関する教材提供及びヒヤリハット事例の提供

4. 事業実施に伴う成果物（成果報告書を除く）

■ 3か年を通じた成果物

① 事前調査の集計・分析結果

社会人が実施しやすいと感じる学び直しの教材・提供方法等の調査結果を集約し、部活動指導員に関心のある層の特定、及びどのような研修形態・カリキュラムが希望されているかを明らかにする。調査対象を専門学校在校生・卒業生、教育委員会、各自治体の人材バンク登録者、学校の部活動顧問、すでに活躍している部活動指導員及び部活動指導員の派遣事業を実施している企業・団体と広く設定したうえで調査実施・結果を分析することで、より多角的な視点から学び直しを捉えられると想定される。

②体系的な部活動指導員養成カリキュラム及び教育プログラム

カリキュラムを開発。またそのカリキュラムを具現化した、e-ラーニングと対面講座を組み合わせた教育プログラムを開発。

③ e-ラーニング講座開設ガイドライン

本事業により得た対面講座と組み合わせた e-ラーニング講座開発のノウハウを、ガイドラインとして集約。多様な専門学校において社会人の学び直しの場を提供する手段として e-ラーニング開設を検討する際の判断基準等を含めた手引書を作成する。

④ 他の専修学校においても実施可能なモデル構築

本事業において実際に自治体・学校と連携することで、他の専修学校で実施可能なモデルを構築する。とくに e-ラーニング教材については本事業終了後も無償公開となることから、主に専修学校における部活動指導員養成研修に活用できるよう普及させる予定。また対面講座においては指導案レベルのもので作成検討予定。尚、行政（自治体）に対しても副次的に活用を提案していく予定。

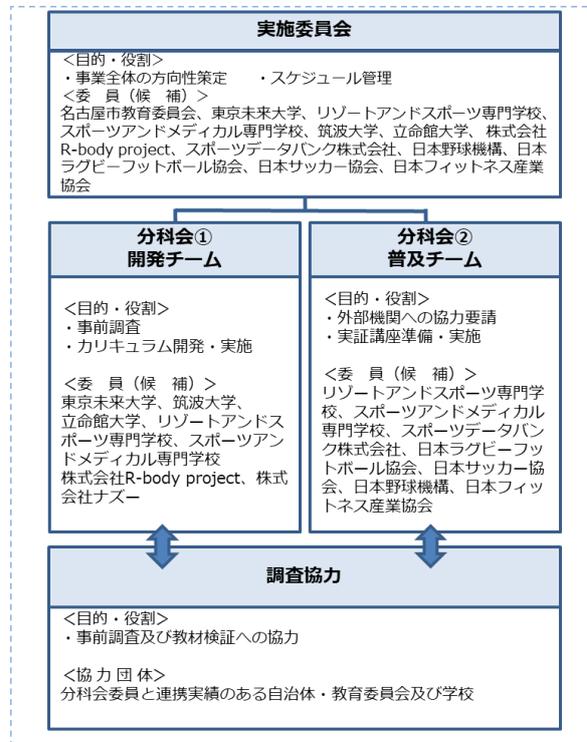
III. 事業実施体制

本事業は全体の方向性を策定し、進捗管理を行う実施委員会のもと、2つの分科会がワーキンググループを組織し、連携を取ることで組織していく。

2つの分科会はそれぞれ、e-ラーニング学習プログラムの開発を行う分科会①「開発」と、作成したプログラムの実証及び普及を行う分科会②「普及」である。

事業実施における体制図は次の通りである。

図1 事業実施体制図



各分科会報告

I. 分科会①【開発】

1.1 分科会①概要

今年度の分科会①の活動について、各側面に沿って記載する。

大きく2つの活動となり、事業開始から8月にかけて、前年度開発カリキュラムの実証アンケートをもとに改修点の抽出を行った。

事業開始から11月にかけて、抽出した改修点を中心に2018年作成の全シナリオの確認及び改修を行い12月に全ての修正を完了し、分科会②「普及」の実証へと移行した。

8月には対面での分科会を開催し、2019年度カリキュラムの作成項目及び担当者の選出を行った。シナリオ→映像化を経て12月に初版完成、作成者および識者の確認のもと修正を行い、2月に最終版の完成を迎えた。

1.2 学習プログラム改修

(1) 2018年度事業実証より

2018年度に実施した実証及び識者による教材受講より抽出した意見を基に決定した改修点について下記に記載する。

① 教材タイトルの改修

- ・2019年作成内容との接続性を意識した改修
- ・学習内容がイメージしやすいよう意識した改修

例) 新しい時代にふさわしいコーチング(2018)→部活動指導とコーチング原理(2019)

事後対応(2018)→部活動の運営(事後対応と再発防止)(2019)

② 冒頭部分の改修

・具体的に部活動現場におけるシーン想定ができるように、冒頭部分の会話にナレーションを追加(ナレーターを増員し、男女別に分ける工夫をした)

③ 出典・引用元の反映

・より学びを深めるための誘導として、受講サイト内に掲載していた関連書籍や参考文献などの情報を動画内に記載した

④ その他誤字・表現など軽微な修正

1.3 学習プログラム開発

(1) 学習プログラム内容の概要

2019年度に開発したプログラム全52ユニット（5分/ユニット）の詳細について以下に記載する

①【参考：2018年度作成教材】（タイトル修正後）

- 「学校内の組織的理解」
- 「スポーツの文化的理解」
- 「部活動の位置づけ」
- 「部活動指導員の職責と自覚」
- 「プレイヤー（児童・生徒）の理解」
- 「部活動の運営Ⅰ（管理）」
- 「部活動の運営Ⅱ（指導）」
- 「部活動の運営Ⅲ（安全管理と法的責任）」
- 「部活動の運営Ⅳ（安全管理体制の構築）」
- 「部活動の運営Ⅴ（事後対応と再発防止）」
- 「部活動指導とコーチング原理」

②【2019年作成教材】

■「部活動指導とハラスメント」(担当：大橋 恵)

部活動現場でも問題視されることの多いハラスメントの捉え方の学習から、実際の部活動において起こりうる事例、関連する法律などについて学ぶ内容を収録した。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
スポーツにおけるハラスメントの捉え方とその具体例	5	具体例からスポーツにおける「ハラスメント」とは何かについて確認しましょう。	加害者の意図は関係なく、被害者が苦痛を感じたら、「ハラスメント」と呼ばれる 物理的なもの(体罰)、精神的なもの(ひいきや罵倒)、不適切な練習の三つに分けられる 保護者やチームメイトによるハラスメントもある
部活動指導にみられるハラスメントの実態	5	部活動の指導においては、実際にどのようなハラスメントがあるのか、理解しましょう	特に運動部においてハラスメントや体罰が見られる 部活動におけるハラスメントの経験率と、種目や性別による違いを理解する ハラスメントを受けることが生徒にどのように影響するのか、その問題点を理解する
部活動指導でのハラスメント発生要因	5	部活動の指導においては、どのようなときにハラスメントが起こりやすいのでしょうか、その原因について理解を深めましょう(まとめに挙げた上二つが運動部に典型的であり、文化部では起こらないことがあるため、おそく運動部において深刻である箇所で述べておきましょう)	勝利至上主義と気持ち主義(努力の偏重) 種目の特性(チームスポーツ) 指導者本人のストレスや生活満足度
ハラスメントに関連する一般的な法律	5	ハラスメントと一般的な法律との関連を確認しましょう	基本的人権に反する行為 刑法第204条「傷害罪」、第208条「暴行罪」、第222条「脅迫罪」、第223条「強要罪」 刑法第230条「名誉毀損」、第231条「侮辱」等
部活動でのハラスメントが生徒に与える影響	5	ハラスメントが部活動運営・指導に与える影響について、生徒の立場から理解を深めましょう	バーンアウト 対人不安、消極的態度 価値観の継承
部活動指導においてハラスメントを発生させないために	5	部活動指導におけるハラスメント防止策について考えましょう	自分の直観に自信を持ちましょう(情報的影響の説明) 「チーム学校」を意識して、部活の外の人と話しましょう さまざまな価値観の人と話をしましょう

■「部活動指導とコーチングテクニック」(担当：平岡 拓晃)

2018年作成の「部活動指導とコーチング原理」での基礎をベースに、実際の部活動現場におけるテクニックを学ぶ内容。技術指導の際のポイントや、思春期の変化に応じた配慮などの事例を収録した。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
コーチングの心構え	5	コーチングの心構えについて確認しましょう	常に適切な行動をとり、暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう 指導者自らの「人間力」を高めましょう プレイヤーのことを最優先に考え、自立したプレイヤーを育てましょう
技術指導における効果的指導法	5	技術指導における効果的指導法について学びましょう	映像による視覚的教材を利用しましょう 場面に応じた比喩的表現、擬態語、リズムづくりによる言葉指示を活用しましょう 場面に応じた筋感覚的指導(身体拘束法、反応強制法)を利用しましょう
コーチに必要なコミュニケーション能力 I	5	コーチに必要なコミュニケーション能力 I について学びましょう	質問・質問をすることでプレイヤーは自問自答し、自己理解を深める事ができ自分自身で考えられるようになります 経験・相手の得意に少し否定したり評価したりせず、中立的な視点を見守り、相手は何を求めているか具体的に聞き入れましょう
コーチに必要なコミュニケーション能力 II	5	コーチに必要なコミュニケーション能力 II について学びましょう	承認・相手の存在や発言をそのまま受け止め、表現しましょう 質問・傾聴・承認を行った後、プレイヤーに適切なフィードバックを行きましょう プレイヤーが好ましい行動をとったときは褒めましょう。運動技能の獲得と定着が促されます 発露力や問題解決能力を身に付ける際にチーム内でディスカッションする場を設けファンクションを活用しましょう
医・科学現場の知見の反映	5	医・科学現場の知見を反映させることの重要性について考えましょう	強化効率と生産性向上のために；過度の経験主義・手探り的強化の脱却 提案・誘導・納得型のコーチングへ；命令・強制型コーチングの脱却 性差・年齢差に応じたデータを元に効果的な強化方針の作成
中学期以降におけるコーチング I	5	中学期以降におけるコーチングについて理解を深めましょう	スキャモンの発育曲線を考慮し発達に合わせたコーチングが効果的であると理解しましょう 身体的な発達が急激であり、動きを習得する際に理性的な理解をしようとする傾向が強くなる時期である 技術や戦術に関する問題に注意を向けさせる指導が非常に有効である
中学期以降におけるコーチング II	5	中学期以降におけるコーチングについて理解を深めましょう	生徒は指導内容について理論的な説明を求められるようになる 指導者からの指示と自己の持つ運動感覚について、自己確認ができるようになる 指導者は「考えながら練習をする」という内容を常に意識して表し、良い習慣づきを形成させることが重要である
指導者のあるべき姿	5	指導者のあるべき姿について確認しましょう	コーチング環境を改善・充実するために社会に開かれたコーチングに努めましょう 競技力と人間力を兼ね備えたプレイヤーを育成し、コーチの社会的信頼を高めましょう 常に学び続けましょう(学ぶことをやめると、教えることをやめなければならない。ロジェ・タームール)

■「部活動指導とメンタルマネジメント」(担当：藤後 悦子・井梅 由美子)

モチベーションを高めるための具体的な手法や、スポーツ特有の競技に関する不安症状に向けた対応方法など実践的なメンタルマネジメントスキルを収録した。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
モチベーションとは	5	生徒の行動の原動力となるモチベーションについて学びましょう。	モチベーションは動機づけとも呼ばれ、人が行動を起こすときの原動力である。 内発的動機づけとは、自分の興味や関心から引き出されるその行為自体が目的となる動機づけである。 外発的動機づけとは、報酬等外的な力により行動が引き出される動機づけである。
モチベーションを高める方法①原因帰属理論	5	モチベーションを高める方法(原因帰属理論)について学びましょう。	起こった出来事(結果)に対して「なぜそうなったのか」(原因)の考え方は人によって違う。 「原因の所在」は「内的」と「外的」の2つに、「(原因の)安定性」は「安定」「不安定」の2つに分隔される。 むしろモチベーションが高まるのは、原因の所在が「内的」で「不安定(その時によって変わる)」の時である。
モチベーションを高める方法②目標設定理論	5	モチベーションを高める方法(目標設定理論)について学びましょう。	目標設定理論とは、目標(ゴール)という要因に着目した理論である。 目標を明確かつ具体的に設定することにより、モチベーションが向上・持続する。 目標に対する適切なフィードバックを行うことにより、モチベーションが持続する。
モチベーションを高める方法③ほめ方・しかり方	5	モチベーションを高めるほめ方・しかり方について学びましょう。	最終目標までのステップを細かく設定して(スモールステップ)ほめる場面を増やす。 叱る(注意する)ときは、生徒の人格ではなく、行為を。 あなたメッセージではなく、わたしメッセージを使う。
メンタルマネジメントと競技不安	5	メンタルマネジメントと競技不安との関連 競技不安に関する症状と発生メカニズムについて理解しましょう。	競技にまつわる「あがり、緊張、不安」について理解しましょう。 特性不安と状態不安について理解しましょう。 競技不安の定義とメカニズムを理解しましょう。
競技不安を低める方法①メンタルトレーニング	5	メンタルトレーニングを取り入れてみましょう	メンタルトレーニングとは メンタルトレーニングの一般的な流れを学びましょう メンタルトレーニングで用いられる主な技法について学びましょう
競技不安を低める方法②森田療法の活用	5	森田療法を活用してみましょう。	森田療法を理解しましょう 森田療法が考える不安のメカニズムを理解しましょう 森田療法を活用した競技不安との付き合い方を理解しましょう
競技不安を低める方法③自律訓練法と筋弛緩法の活用	5	自律訓練法と筋弛緩法を活用してみましょう。	スポーツ選手のストレスマネジメントとリラクゼーションを学びましょう 自律訓練法を実践してみましょう 筋弛緩法を実践してみましょう

■「トレーニング基礎」(担当：西川 壘)

体力という概念の理解から体力向上のために必要なトレーニングの基本原則を中心に、科学的な知見に基づく運動指導を提供できる指導者としての基礎を収録した。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
体力とは①概念	5	様々な要素によって構成されている体力の概念を理解する	行動体力とはスポーツ活動などにおける作業能力や活動能力である 防衛体力とは様々なストレスに対する抵抗力や免疫、体温調節などの生存能力である スポーツに直接的に関与するのは行動体力であるが、防衛体力は行動体力の根底を支えている
体力とは②狭義の行動体力の種類と特性	5	体力トレーニングによって鍛えることができる行動体力について理解する	行動体力は形態と機能に分けることができ、体量や筋肉量＝形態、筋力や持久力など＝機能をトレーニングで鍛えることができる エネルギー系体力要素の相互関係 発育発達概念からジュニア期にはサイバネティクス系のトレーニングが重要である
体力とは③体力に含まれるスキルとは	5	スキルも体力の一部であることを理解する	スキルとは身体運動を上手に(巧みに)行うために必要な能力であり、サイバネティクス系の体力要素が該当する 身体機能調節を調節することを運動制御(motor control)といい、スキルは機能的運動制御能力といつこともできる スキルは4つの要素により構成され、脳・神経系の機能によって決定される
トレーニングの原理・原則	5	トレーニングの一般論となっている原理原則を理解する	経験から積み上げられたトレーニング方法だけでなく現段階で最適なトレーニングを選択する トレーニングの三原則(オーバーロード・特異性・可逆性) トレーニングの五原則(全面性・意識性・漸進性・個別性・反復性)
トレーニング処方の方考え方①	5	トレーニングを処方する上で重要な変数を理解する	種類・強度・量・配列・休憩時間・頻度・背景を考える 形態的分類 体力要素による分類
トレーニング処方の方考え方②	5	中・長期的な視点でトレーニングを計画することの必要性を理解する	ピリオダイゼーションのサイクル ピリオダイゼーション周期の方考え方 ピリオダイゼーションのバリエーション
トレーニングと疲労およびその回復	5	トレーニング効果を最大化するために、きついことをやるだけでなく、適切な休養を計画的にとる必要性を理解する	超回復モデル フィットネス疲労モデル 受動的に疲労の回復を待つより、フィットネスレベルの維持を念頭に置いた積極的休養が重要

■「ジュニア期における身体構造の基礎知識」(担当：西川 塁)

解剖学の基礎の理解と、部活動現場における対象(生徒)の年代・性別に応じた身体的特徴の理解を深めるための情報を収録した。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
機能解剖①上半身	5	上半身の骨・関節・筋肉などについて理解する	上半身の骨について大まかに理解する 上半身の関節について大まかに理解する 上半身の筋肉について大まかに理解する
機能解剖②脊柱・体幹	5	脊柱・体幹の骨・関節・筋肉などについて理解する	脊柱の基本構造・骨について大まかに理解する 脊柱の基本構造・関節について大まかに理解する 脊柱の基本構造・筋肉について大まかに理解する
機能解剖③下半身	5	下半身の骨・関節・筋肉などについて理解する	下半身の骨について大まかに理解する 下半身の関節について大まかに理解する 下半身の筋肉について大まかに理解する
発育発達期の身体的特徴	5	子どもと大人の違いを正しく理解する	スキヤムの発育曲線に沿って、大まかな発育のアウトラインを理解する 幼児期から小学生低中学年にかけて感覚の発達や神経・筋コントロール能力の向上が著しい 最大酸素摂取量(持久力)はPHV年齢付近で、筋力はPHV年齢以降で急速に発達する
発育発達に応じた運動指導	5	トレーニングを進めていく中で課題を吸収しやすい時期と吸収しにくい時期があることを理解する	トレーニング(遊び)を通じて基本となる身体の動きを獲得しておくことが重要 ゴールデンエイジを迎える前に多種多様なトレーニング経験を積んでおく 一概に年齢のみで判断せず、生物学的年齢の個人差に配慮する
発育発達期に多い怪我	5	発育発達期に起こりやすい怪我にはどのようなものがあるか、なぜ起こりやすいのかを理解する	骨の先端近くにある成長軟骨層に強い力や慢性的なストレスが加わることで成長期ならではの怪我が発生する 筋肉に比べて骨の成長速度が速いため、一時的に筋肉が硬くなりやすい この時期に起こりやすい怪我の名称や部位を理解し、そのような症状が現れる場合は、すぐに専門家に判断を要する
女性競技者の身体的特徴①	5	思春期の女性競技者に関わる上での注意点を理解する	女子のPHV年齢は男子に比べて2歳程度早いことを考慮する 女性競技者の三主徴(FTA)を防ぐためには消費エネルギーに見合った摂取エネルギーの確保が重要である 月経周期異常が見られる競技者への対応
女性競技者の身体的特徴②	5	女性競技者に多く見られる怪我について理解する	男性に比べて体脂肪が多く、筋量と骨密度が低い 前十字韌帯損傷と予防プログラム 月経周期異常と疲労骨折

■「救命・救急処置(応急手当)」(担当：学校法人三幸学園 リゾート & スポーツ専門学校)

2019年度は実際に対応を行う際の知識を中心とした構成とし、本章では部活動指導員に必要な救助者としての意識や、以降の章に続く心構えの基本を収録した。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
救助者の自覚	5	応急処置者(ファーストエイド)の使命、役割について学びましょう	応急手当とは何かを学び、学ぶ目的は何かを考えてみましょう 救助者が守るべきこと(自分自身の身を守る、医薬品は使用しない、...)を学びましょう 傷病者への接し方について学びましょう(力づけ、安静、...)
手当の基本	5	怪我をした部位や重症度の見分け方を学びましょう	1次評価 バイタルサインを観察し、緊急性を判断しましょう 2次評価 具体的なけがの様子を確認しましょう
現場での留意点	5	二次被害や感染症から身を守るための方法を学びましょう	周囲の状況の観察の重要性を学びましょう 感染防止に必要なものを用意し、使用方法を確認しましょう

■「一次救命処置（BLS）」（担当：学校法人三幸学園 リゾート＆スポーツ専門学校）

一次救命における基本を中心とする知識・技術を人体の構造を通して学び、有事の際に救助者として対応するために必要な内容を収録した。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
救急救命の流れ	5	救命の連鎖を踏まえた効果的な救急救命法について学びましょう	救命の連鎖 救助の要請方法
心肺蘇生法の重要性	5	心肺蘇生法を行うことの意義を学びましょう	心臓の生理学について（全身に血液を送り出す機能） 心停止に陥る要因（不整脈などの基礎疾患、心臓震盪） <small>救命曲線（カラーの救命曲線、ドリンカーの生存曲線、除細動が1分遅れるごとに救命率は7～10%低下する</small>
気道確保と回復体位	5	意識がない傷病者への安全な対応を学びましょう	意識を失ってしまった場合、気道が塞がり窒息の恐れがある 正しい頭部後屈頸先拳上法の実施方法を学びましょう 回復体位が必要な場合を理解し、実施しましょう
AEDを用いた除細動と心肺蘇生法	5	効果的な心肺蘇生法について学びましょう	心肺蘇生法の手順を理解しましょう AEDの効果、使用方法について理解しましょう 救急隊への引き渡し、心肺蘇生法を中断して良い場合について学びましょう
気道異物除去	5	安全な異物除去方法を学びましょう	気道が詰まる要因を理解し、気道が詰まった際のサインについて学びましょう 気道内異物除去法（背叩打法、腹部突き上げ法）の実施方法と注意点を理解しましょう 心肺蘇生法への移行について（意識がなくなった場合、心肺蘇生法を行う）
熱中症対応	5	熱中症が発生してしまった場合の対応について学びましょう	熱中症の種類を学びましょう（熱痙攣、熱失神、熱疲労、熱射病） 各症状への救急救命処置方法を学びましょう

■「けがに対する手当」（担当：学校法人三幸学園 リゾート＆スポーツ専門学校）

部活動現場で対応可能なレベルの手当、また適切な対処を行い、医療機関へ繋ぐまでの対応を分けてそれぞれに必要な知識を収録した。

タイトル	学習時間	学習のねらい	まとめ
きず（開放性と非開放性のきず）	5	きずの種類について学びましょう	きずの種類（開放性：切創、裂創、刮創、挫創、擦過創、刺創、非開放性：熱傷、凍傷、打撲、捻挫、骨折） きずの危険性（出血、痛み、細菌感染）を認識しましょう
止血	5	様々な出血に対応した適切な止血法を学びましょう	止血法（直接圧迫止血法、間接圧迫止血法、直接間接併用法、止血帯法） 感染を防止するための方法を学びましょう その他の止血の対処法を学びましょう（鼻出血）
骨折	5	骨折発生時の適切な対応を学びましょう	骨折とは 代表的な骨折の種類（コレス骨折、鎖骨骨折） 骨折が発生した際の固定法を学びましょう（包帯、三角巾）
頭頸部のけが	5	頭頸部外傷が発生した際の適切な対応について学びましょう	頭頸部外傷とは（脳震盪、脳出血、脳挫傷、脊髄損傷） 評価項目（意識障害、健忘、運動障害、感覚障害） 搬送方法、医療機関の受診
RICE処置	5	けがが発生した際の適切なRICE処置について学びましょう	RICE処置とは 効果的な実施方法（冷却材料、冷却時間、注意点、禁忌）を理解しましょう けがごとのRICE処置について（捻挫、肉離れ、打撲）

(2) e-ラーニングシステムの概要

本事業で使用した株式会社プロシーズの e-ラーニングシステム Learning Ware(ラーニングウェア)は、e-ラーニングコンテンツの配信やその学習進捗管理だけでなく、集合研修出欠確認やレポート提出など、研修全般の管理が行え、学習者同士のコミュニケーションを促進する SNS 機能が搭載された学習管理システムである。

■ Learning Ware の主な機能一覧

1) 学習機能

分類	説明
登録	(ア) ログオフ時の連絡先の確保を目的にユーザーは登録が必要となる。 登録手順は以下の通り： ① メールアドレスの仮登録 ② ID、パスワード、本登録用 URL を記載したメールを受信 ③ 上記 URL にアクセスすることで本登録完了 (イ) 属性調査アンケート機能を搭載する。質問項目は 5 問程度を想定。 質問事項は分科会で作成する。
講義	・ 掲載された講義の閲覧が可能（要無料登録） ・ 講義全体については、いずれの分野・ユニットからでも閲覧が可能
アンケート	管理者が登録したアンケートに回答可能

2) 成績管理機能

機能	説明
講座進捗	・ 講座の進捗状況をユーザー別に把握。
テスト	・ ユーザーが受験したテストの詳細を管理 ・ 受検日時及びテスト結果の確認が可能 ※テストについては次年度以降に作成する見込み
レポート	・ 提出レポートの評価及び進捗を管理しコメントの入力も可能
ログイン状況	・ ログイン状況を管理（ログインした時間や受講環境の確認が可能）する機能の装備

3) 管理者からの情報発信・ユーザー管理機能

機能	説明
メール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者がログオフ時に閲覧できるよう、ユーザーにメールを送信することができる。ユーザー別送信・一括送信の選択可能。発信のタイミングも設定可能とする。
アナウンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ ログイン時のトップ画面に表示されるアナウンス文を登録できる。
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答方法は単数回答、複数選択、記述式等の設定が可能。 ・ アンケートの回答結果を定期的にグラフ化 ・ 実証講座アンケートの場合、質問事項等は分科会で検討・作成する
グループ管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザーをグループ分けし、グループごとに管理者を設定できる

■Learning Ware 動作環境

- ・ OS
 - ▼パソコン：Windows Vista、7、8、8.1、10、Mac OS X
 - ▼タブレット、スマートフォン：iOS8 以上、Android4.4 以上
- ・ ブラウザ
 - ▼パソコン：Microsoft Internet Explorer9/10/11、Firefox(39.0)、Google Chrome(43.0)
 - ▼タブレット、スマートフォン：
 - Safari(iOS のみ)
 - Android 標準ブラウザ(Android4.4 のみ)、
 - モバイル Chrome(Android5 のみ)

(3) e-ラーニング学習の流れ

■e-ラーニング受講手順

1) 配布された ID とパスワードで以下の URL よりログインする

<https://www.learningware.jp/bukatsu/ps/Default.aspx>

ログイン画面



トップページ画面



講座一覧画面



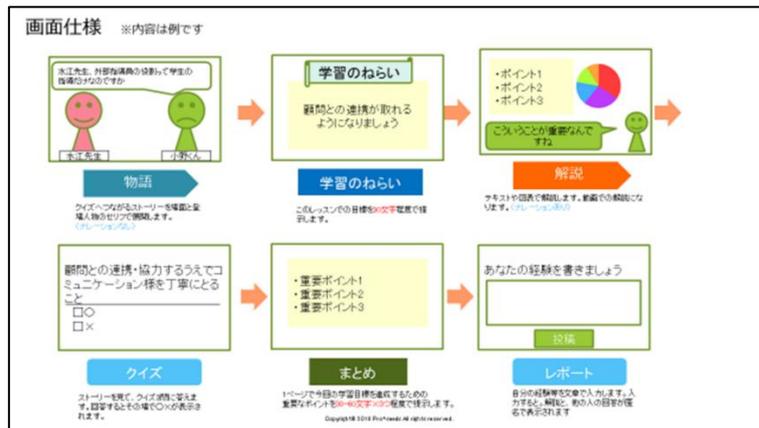
受講するボタンを押して
教材を表示する

The screenshot shows a course interface. On the left is a list of lessons, with lesson 14 highlighted. On the right is a detailed view of lesson 14, titled '【公開準備中】14. 部活動指導とメンタルマネジメント'. It includes a progress bar at 0%, a table of learning objectives, and a list of lesson topics with '受講する' (Enroll) buttons.

学習進捗	0%
学習回数	0回
前回の学習	未受講 (未受講)
受講期間	2019年01月01日～

レッスン詳細	タイトル、内容等で検索できる	検索	クリア
▶ 受講する	14-1 モチベーションとは		
▶ 受講する	14-2 モチベーションを高める方法①原因理解		
▶ 受講する	14-3 モチベーションを高める方法②目標設定理論		
▶ 受講する	14-4 モチベーションを高める方法③ほめ方・しかり方		
▶ 受講する	14-5 メンタルマネジメントと競技不安		
▶ 受講する	14-6 競技不安を低める方法①メンタルトレーニング		
▶ 受講する	14-7 競技不安を低める方法②森田療法の実用		
▶ 受講する	14-8 競技不安を低める方法③自律訓練法と筋弛緩法の実用		

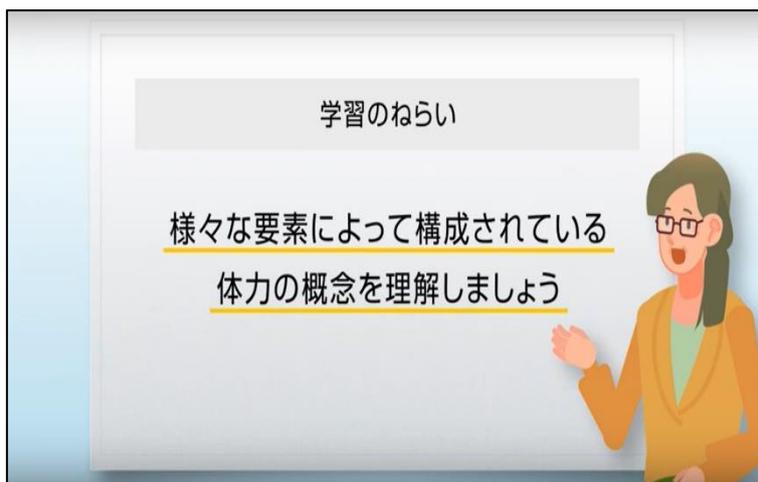
学習の流れ



シーンを想定させる会話で受講がスタートする

The diagram shows a conversation between three people. A woman says, '走ってもすぐに息が切れちゃう...' (Even when I run, I get out of breath so quickly...). A man replies, 'それは体力がないからだろう。体力をつけるトレーニングをしないと。' (That's probably because you don't have enough physical fitness. You need to do training to build up your physical fitness.). Another woman replies, 'そうですね、でも体力には行動体力と防衛体力があります。それを理解した上でトレーニングメニューを検討したほうがいいですよ。' (That's right, but there are action physical fitness and defensive physical fitness. It's better to consider a training menu after understanding them.)

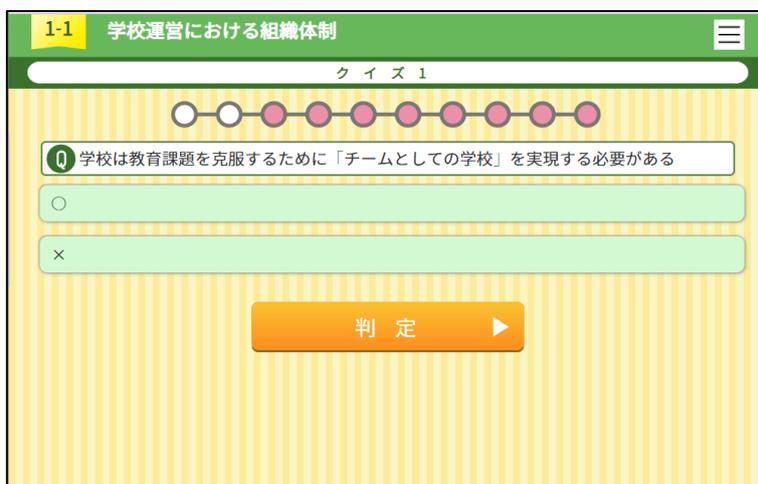
物語に紐付いた学習のねらいを掲出し、学習する内容を明確にする



解説で専門知識に関する学びを深める



クイズに回答し、知識の定着を図る



まとめ
《 体力とは①概念》

- 行動体力とはスポーツ活動などにおける作業能力や活動能力である
- 防衛体力とは様々なストレスに対する抵抗力や免疫、体温調節などの生存能力である
- スポーツに直接的に関与するのは行動体力であるが、防衛体力は行動体力の根底を支えている

お疲れ様でした



II. 分科会②【普及】

1.1 分科会②概要

分科会②では2018年度～2019年度に開発したeラーニング教材の実証講座実施に向けて、法人内関係者や関連企業・団体への手配や受講後アンケートの質問項目策定、実証講座実施、アンケートの分析項目の策定及び分析を行った。

2018年度教材に関しては仕様を含めた全体的な設問を設定し、受講対象も専門学校生から現役の運動指導者まで幅広く設定をした。対して2019年度教材については、専門的な観点からの意見集約を主な狙いとするため現役の運動指導者を中心に対象とした。

今年度の実証講座においては委員として参画している団体をはじめ、実際の運動指導者として現場活動経験のある対象者、また将来的に指導者としてのキャリアを目指す専門学生及び教員を中心に事前協力依頼を行った。

上記と並行し、実証講座の際に受講者に回答いただく受講後アンケートの質問内容を検討した。昨年度の実証において教材の仕様を問う設問を中心に設定したため、今年度は教材内容及び学びが部活動指導員としてのキャリア形成につながるイメージを持てるかを問う設問とした。

1.2 実証

■受講者手配

受講に際しては、スポーツ指導者を目指す学校法人三幸学園の全国リゾート＆スポーツ専門学校の学生及び教職員を中心に実証を行った。全国リゾート＆スポーツ専門学校に受講依頼の章割り当てを行い、通常授業内において時間を確保し一斉の受講とした。教職員に関しては現場経験のある人材、また運営しているスポーツ幼稚園での指導者を対象に実施した。

その他スポーツ指導者については、専門的な知見からの意見集約を主なねらいとして、参画委員の関連団体及びリゾート＆スポーツ専門学校の連携企業の中でもスポーツ現場へのトレーナーや指導者の派遣実績のある企業を中心に事業趣旨の説明後、実証協力をいただいた。

(1)実証講座-1 (2018年度作成教材)

■実証講座概要

目的：開発した教材の有効性検証（教材仕様含む）

時期：2019年12月2日～2020年1月10日

対象：①学校法人三幸学園リゾート＆スポーツ専門学校在校生・教職員（全国9校）

②各種スポーツ指導者（アメリカンフットボールトレーナー・幼児体育指導員・フィットネスインストラクター・高校サッカー指導者など）

対象講座：2018年度作成全ユニット

回答数：2976名

■実証講座アンケート回答数内訳

- 1 「学校の組織的理解」：113 名
- 2 「スポーツの文化的理解」：219 名
- 3 「部活動の位置づけ」：533 名
- 4 「部活動指導員の職責の自覚」：362 名
- 5 「プレイヤー（児童・生徒）の理解」：376 名
- 6 「部活動の運営Ⅰ（管理）」208 名
- 7 「部活動の運営Ⅱ（指導）」：228 名
- 8 「部活動の運営Ⅲ（安全管理と法的責任）」：319 名
- 9 「部活動の運営Ⅳ（安全管理体制の構築）」：232 名
- 10 「部活動の運営Ⅴ（事後対応と再発防止）」：111 名
- 11 「部活動とコーチング原理」：275 名

■実証用アンケート内容（設問項目）

今年度の実証に設定した項目の通りである。

<受講者属性に関する設問>

- ① これまでの運動指導歴について教えてください

選択肢：自由記述

<教材仕様に関する設問>

- ② 1つのコンテンツの情報量はいかがでしたか

選択肢：適切・多い・やや多い・やや少ない・少ない

- ③ 上記設問において「多い」もしくは「少ない」を選択された方にお聞きします

具体的にはどのくらいの情報量が適切だと感じますか

選択肢：自由記述

<教材内容に関する設問>

- ④ 部活動現場で役に立ちそうな情報が得られましたか

選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない

- ⑤ 上記設問において「そう思う」「ややそう思う」を選択された方にお聞きします

具体的にどのような部分が役に立つと感じましたか

選択肢：自由記述

- ⑥ 得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか

選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない

- ⑦ 部活動指導員としての素地が得られる実感はありましたか

選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない

- ⑧ プログラム内容はタイトルに対して適切なものでしたか

選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない

- ⑨ さらに学習してみようという意欲は湧きましたか

選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない

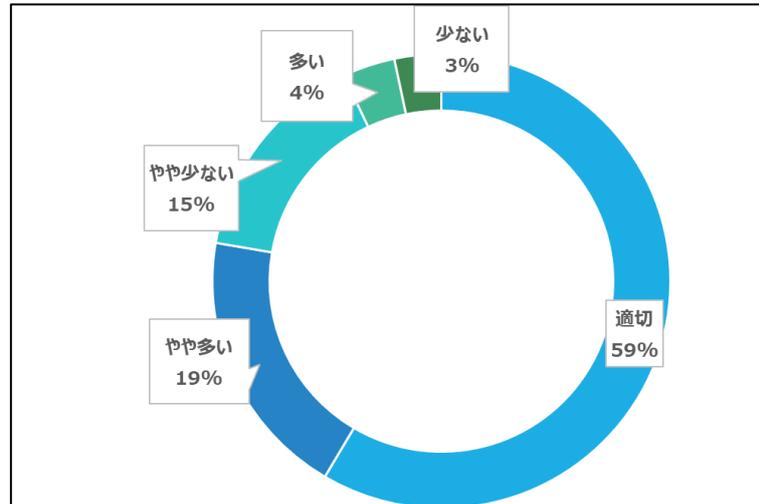
- ⑩ コンテンツ内容は随時更新予定です 今後も利用したいですか
 選択肢：そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない
- ⑪ 教材において不足している内容、他に得ることができたらと思う情報はありますか
 選択肢：自由記述
- ⑫ 今後どのような教材があれば良いと思いますか 具体的に教えてください
 選択肢：自由記述
- ⑬ プログラム全般に関して良いところ、改善すべきところ（わかり難いと感じたところなど自由に記述してください
 選択肢：自由記述

■学習プログラム評価

- ① これまでの運動指導歴について教えてください（抜粋）

- ・ 中学バスケットボール
- ・ 高校生バスケットボール
- ・ 小学生サッカースクール
- ・ フィットネスインストラクター
- ・ パーソナルトレーナー

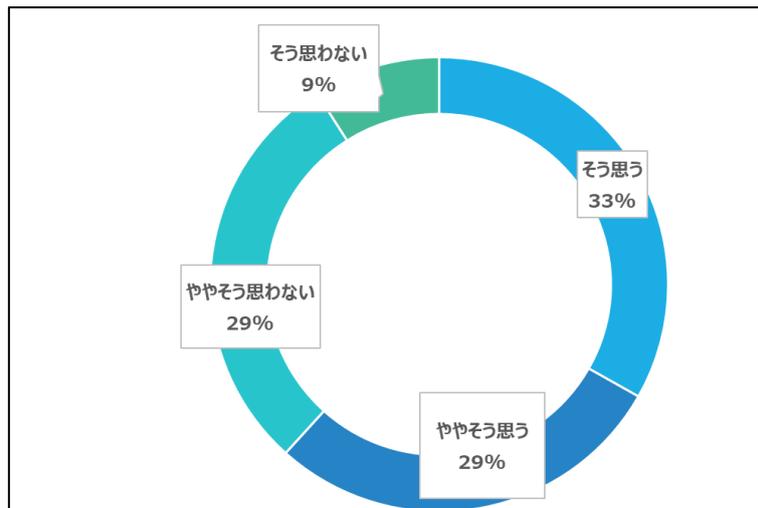
- ② 「1つのコンテンツの情報量はいかがでしたか」



- ③ 上記設問において「多い」もしくは「少ない」を選択された方にお聞きします
 具体的にはどのくらいの情報量が適切だと感じますか（抜粋）

- ・ 3分程度でよい
 - ・ 倍（10分）程度必要なのではないか
- もう少し詳しい説明が必要と感じるため
- ・ イラストが多いように感じた
 - ・ 内容によってはもう2~3分増やしたほうが良いと感じる

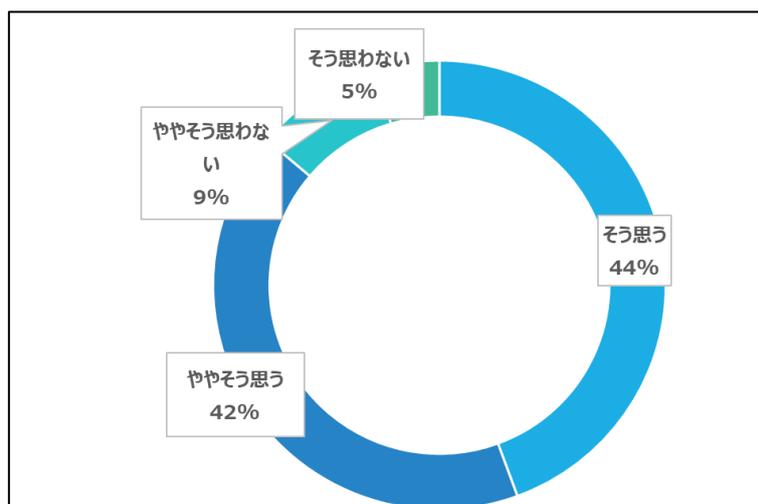
④ 「部活動現場で役に立ちそうな情報は得られましたか」



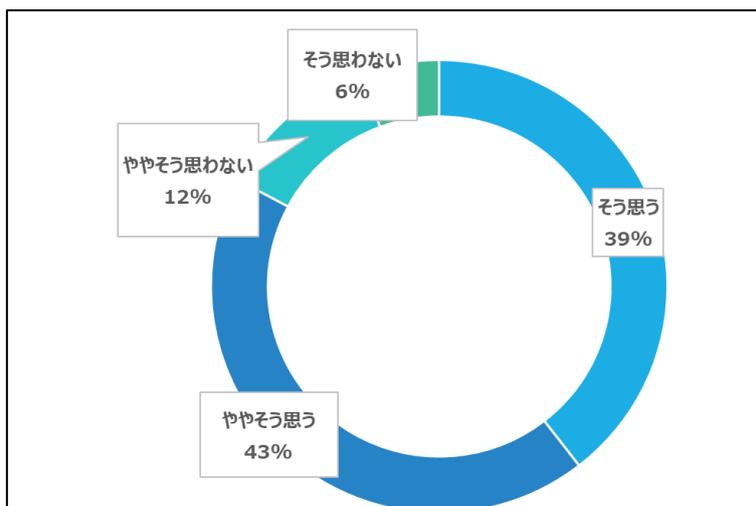
⑤ 「上記設問において「そう思う」「ややそう思う」を選択された方にお聞きします
具体的にどのような部分が役に立つと感じましたか」(抜粋)

- ・ 顧問の助けになると感じた
- ・ 改めて重要なことを理解ができた
- ・ 自身が当時指導された意味がよく分かった
- ・ 学校の活動の一環という意識を持った
- ・ 話のきっかけとなるような豆知識として得ることができた
- ・ 教員免許を保有していない人でも、学校現場での経験が少なくても指導に自信が持てそうだと感じた
- ・ 指導における基礎が詰め込まれていた

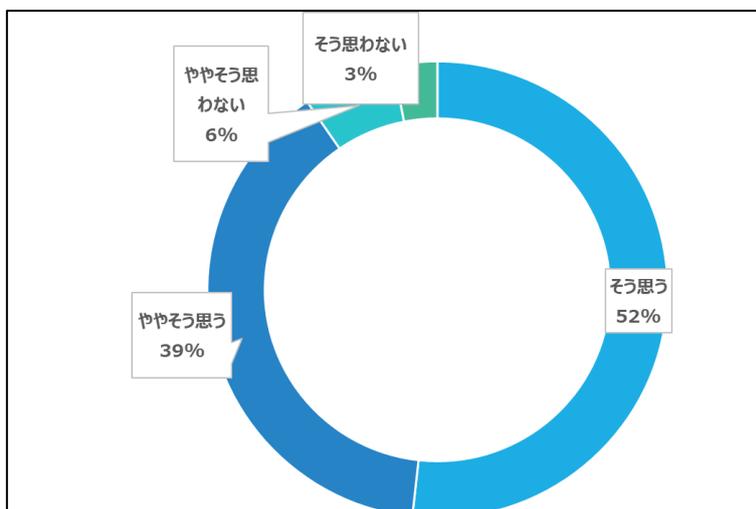
⑥ 「得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか」



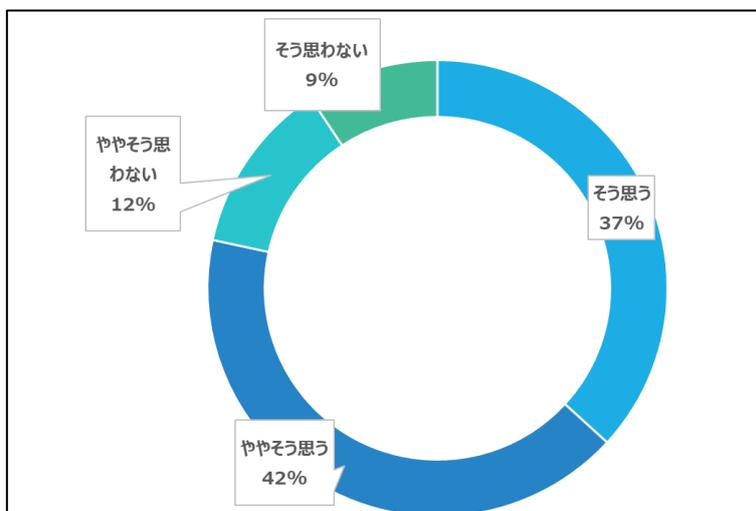
⑦ 「部活動指導員としての素地が得られる実感はありましたか」



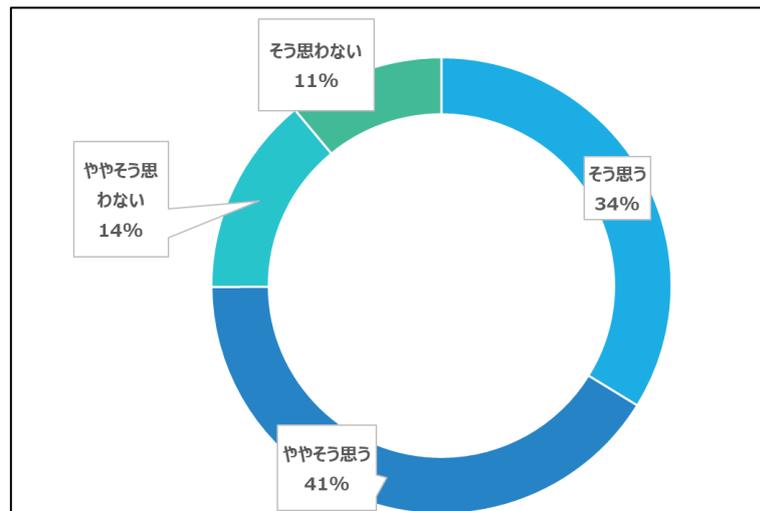
⑧ 「プログラム内容はタイトルに対して適切なものでしたか」



⑨ 「さらに学習してみようという意欲は湧きましたか」



⑩ 「コンテンツ内容は随時更新予定です 今後も利用したいですか」



⑪ 「教材において不足している内容、他に得ることが出来たらと思う情報はありますか」(抜粋)

- ・ストレッチなどの実践的な内容
- ・実際の生徒や教員からの声
- ・映像での具体例
- ・待遇など金銭的な内容も必要なのではないか

⑫ 「今後どのような内容の教材があればよいと思いますか」(抜粋)

- ・実際のトレーニングメニューを組み立てる順序
- ・疾病の様子の写真など
- ・指導者としての社会的責任をより詳しく
- ・現代の小中学生の部活動に対する意識

⑬ 「プログラム全般に関して良いところ・改善すべきところ(わかり難いと感じたところ)など自由に記述してください」(抜粋)

【肯定的な意見】

- ・イラスト+短文の説明の部分が良かった
- ・動画は自分のペースで止めながら受講できて便利
- ・個人の特性を捉えた内容などを学んでみたいと思った
- ・項目ごとに分かれていて理解がしやすかった
- ・実践的な内容が増えてきた
- ・より高度な内容を展開していく上での構成や表現は工夫が必要

【改善を検討する点】

- ・全国での活動や取り組み事例などを把握したい
- ・難しい言葉(専門的なもの)は少しかみ砕いた説明が必要なのではないか

- ・少し淡々と進んでいる感じを受けた
- ・一つの画面でコメント音声が長く感じたためポイントはテキストで記載するなどしてはどうか
- ・専門的な内容はどこまでを理解させるのかの線引き（見極め）が肝心
- ・トレンドや注目の高い内容についてどの程度改修をするかも考える必要がある

(2)実証講座-2 (2019年度作成教材)

■実証講座概要

目 的：開発した教材の有効性検証（専門性検証）

時 期：2020年1月25日～2020年2月10日

対 象：各種スポーツ指導者（アメリカンフットボールトレーナー・アイスホッケートレーナー・幼児
体育指導員・フィットネスインストラクター・高校サッカー・中学バレー指導者など）

対象講座：2019年度作成5分野ユニット

回答数：123名

■実証講座アンケート回答数内訳

15「トレーニング基礎」：42名

16「ジュニア期における身体構造の基礎知識」：18名

17「救命・救急処置（応急手当）」：21名

18「一次救命処置（BLS）」：29名

19「けがに対する手当」：13名

■実証用アンケート内容（設問項目）※すべて自由記述

- ① 「どのような内容が 部活動現場で役に立ちそうだと感じられましたか」
- ② 「教材において不足している内容、他に得ることができたらと思う情報はありますか」
- ③ 「今後どのような教材があれば良いと思いますか 具体的に教えてください」
- ④ 「プログラム全般に関して良いところ、改善すべきところ（わかり難いと感じたところなど）自由に記述してください」

■学習プログラム評価

- ① 「どのような内容が 部活動現場で役に立ちそうだと感じられましたか」
 - ・基本的事項の再確認となった
 - ・フェアプレイ精神や守るべき規則などを重んじる必要性を考えさせられた
 - ・部活動の目的について再度考えることができた
 - ・万が一に備えた準備をする責任を感じる事ができた
 - ・シンプルで分かりやすかった

②「教材において不足している内容、他に得ることができたらと思う情報はありますか」

- ・実際の現場における緊急搬送フローを確認する必要があるなどの確認すべき内容についても記載が必要と感じる
- ・けがに対する処置は動画を用いての学習が良いと感じる
- ・熱中症に関しては日ごろの取り組みやチェック項目（予防に向けて）なども活用するとよい
- ・専門的な文言が冒頭から出てきたため、受講者のレベル感によってはハードルを高く感じる可能性もあるのではないか
- ・救命に関する公的な資格や講習に関する情報があるとよいのではないか

③「今後どのような教材があれば良いと思いますか 具体的に教えてください」

- ・熱中症だけでなく運動誘発性喘息、運動誘発アナフィラキシーなども作成してみてもよいと思う
- ・ケーススタディとしての実際に起こりうる症例とその対応
- ・疾患別の対応方法（止血・けがへの処置・固定法など）
- ・動画を落とし込んだ現場へ持ち運べるポケットチャートなど

④「プログラム全般に関して良いところ、改善すべきところ（わかり難いと感じたところなど）自由に記述してください」

- ・今後部活動指導員を目指すということで知識が十分でない受講者も想定されるとなると、静止画だけでなく動画の量も増やして、視覚からの情報を増やしたほうが良いのではないか
- ・応急処置に使用する物品は名前だけでなく画像を掲出するなどしたほうが良い
- ・機能解剖学についてはイラストの量を増やしたほうが良い
- ・倍速で再生できるなどの機能の検討

■実証講座のまとめ

2018年度作成教材については改修を加えた点のねらい含め、概ね肯定的な意見の集約となった。教材の仕様に関する設問については昨年度事業内でも意見集約を行い適正である見通しが立っていた項目であり、本年度約8割が情報量に対しての適切と回答があった。次年度以降はより内容の充実に注力することが可能かと考える。同様に教材内容についても肯定的な意見が目立った。

2019年度作成教材については、専門的な内容含めより実務レベルでの教材を目指して作成したため、実証に関しても、主に専門的な視点からの意見集約とした。必要な知識量に加え、より学習を深めたほうが良い項目や観点など、多岐にわたり意見集約ができた。

開発最終年度となる次年度の教材作成に向け有意義な実証となった。

(3)「リカレント教育プログラム運営モデルの検証」認定試行的実証

■実施概要

文部科学省委託事業「リカレント教育プログラム運営モデルの検証」における認定試行的実証に向けて、当事業のe-ラーニングをベースにした対面講座を開発した

【日時】

2020年1月28日（火）18：00～

【場所】

東京リゾート＆スポーツ専門学校

【講義回数】

30分×3科目

【対象】

20名の実証講座対象者+5名の三幸学園内オブザーバー

■実証講座担当講師

- ・「トレーニングの原理原則」

担当：岩田 智也（学校法人三幸学園 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）

- ・「コーチング基礎」

担当：兼子 大次郎（学校法人三幸学園）

- ・「コーチングテクニック」

担当：兼子 大次郎（学校法人三幸学園）

■実証の章立て

冒頭（ゴール設定含む）→理論→具体例→まとめ・質問

■受講者からのコメント

- ・「結果を求められる世の中で個々に応じた目標設定とその成長を見て、達成感や成長実感を持たせることがどれだけ難しいことか、そこに部活動指導の真髄があると感じた。とても考えさせられる内容でした」
- ・「コーチングについての基本が良く理解できた。それぞれの成長に合わせられる人間性と専門性が求められる仕事だと感じた」
- ・「トレーニングの知識を有する人には少し物足りない内容ではあったが、丁寧に質問に答えてもらい勉強になった」
- ・「まとめの各問題の前に一旦振り返りを入れてもよいのではないか」

■当日スライド資料（トレーニングの原理原則）

トレーニングの原理原則

アスレティックトレーナー
岩田 智也

トレーニングの効果を
最大限に発揮する方法とは？



学習のねらい

トレーニングの基本である
「**3原理・5原則**」を
理解しましょう。

トレーニングの3原理

- 過負荷の原理
- 特異性の原理
- 可逆性の原理



過負荷の原理

トレーニング効果を得るためには、
いつもより強い負荷を与えること！！



過負荷の原理



スクワット60kg10回を1年間続けているのに、
筋肉が大きくなるのはどうして？！

同じ負荷では、カラダが刺激に慣れてしまうので効果は現れにくいよ！
次回は、65kgの負荷でやってみよう！



特異性の原理

トレーニングの種類によって効果が変わること！！

例えば

- 有酸素運動をすると・・・
- スクワットをすると・・・



可逆性の原理

トレーニングを止めてしまうと、
身体が元の状態に戻ってしまうこと！！



可逆性の原理



トレーニングをしたらスタイルが良くなった！鍛えるの止めようかな・・・

体力や体型を維持するためには、トレーニングの継続が大事だよ！



トレーニングの3原理

- ●●●●の原理
- ●●●●の原理
- ●●●●の原理



トレーニングの5原則



- 全面性の原則
- 漸進性の原則
- 反復性の原則
- 個別性の原則
- 意識性の原則



全面性の原則

身体の一部だけではなく、
全身をバランスよくトレーニングすること！



全面性の原則



上半身だけトレーニングすることがどうして良くないの？

身体の一部だけ鍛えると、関節や筋肉に負担がかかり、怪我の原因になる！



意識性の原則

トレーニングの目的や効果を理解して、意識しながら行うこと！！



意識性の原則



具体的に何を意識するの？？

どこの筋肉を鍛えているのか、なぜその重量や回数で行っているのか？
理解すると、なんとなくやるのでは効果が変わるよ！



漸進性の原則

トレーニングの負荷を“徐々”に上げて行うこと！



漸進性の原則

ベンチプレス



60kg

80kg

100kg

120kg



怪我の発生！！

個別性の原則

年齢や性別、体型、目的に合わせて、
個人に適したトレーニングを行うこと！



個別性の原則



トレーニングの方法が分からないから教えて欲しい！

それなら、僕が普段行っているトレーニング内容を一緒にやろう！



目的やトレーニング歴が異なるのに、同じメニューは効率が良くないよ！

反復性の原則

トレーニングを反復・継続しないと効果は望めないこと！



反復性の原則



トレーニングは流行りが多いから、どんどん内容を変えた方が良さそうだな！

飽きたらやめるのは、反復性の原則から外れるよ！
何回も反復して、継続することで初めて効果が現れる！



トレーニングの5原則



- ●●●●の原則
- ●●●●の原則
- ●●●●の原則
- ●●●●の原則
- ●●●●の原則



クイズ 1

経験から積み上げられたトレーニング方法だけでなく、
現段階で最適なトレーニングを選択することが大切である。

1. ○

2. ×

23

クイズ 1

経験から積み上げられたトレーニング方法だけでなく、
現段階で最適なトレーニングを選択することが大切である。

1. ○

2. ×

24

クイズ 2

トレーニングの3原理とは、
過負荷・特異性・非可逆性のことである。

1. ○

2. ×

25

クイズ 2

トレーニングの3原理とは、
過負荷・特異性・非可逆性のことである。

1. ○

2. × (オーバーロード・特異性・可逆性)

26

クイズ 3

トレーニングの5原則とは、
全面性・意識性・漸進性・個別性・反復性のことである。

1. ○

2. ×

27

クイズ 3

トレーニングの5原則とは、
全面性・意識性・漸進性・個別性・反復性のことである。

1. ○

2. ×

28

まとめ

トレーニングの原理・原則

- 過負荷の原理
- 特異性の原理
- 可逆性の原理

- 全面性の原則
- 漸進性の原則
- 反復性の原則
- 個別性の原則
- 意識性の原則

■当日スライド資料（部活動におけるコーチング基礎）

部活動におけるコーチングの基礎

©2019 Daijro Kaneko

学校教育活動の一環

©2019 Daijro Kaneko

©2019 Daijro Kaneko

—今日のねらい

部活動におけるコーチングの基本について
理解を深めましょう

©2019 Daijro Kaneko

—教育活動における部活動指導の意義

体力の向上や技能の習得

©2019 Daijro Kaneko

—教育活動における部活動指導の意義

生徒同士や教員との関係作り

学習意欲の向上

自己肯定感や責任感を養う

©2019 Daijro Kaneko

一教育活動における部活動指導の意義



教員の業務過多

専門人材の不足

©2019 Daijiro Kaneko

一教育活動における部活動指導の意義



部活動の縮小

©2019 Daijiro Kaneko

一教育活動における部活動指導の意義

運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン
(平成30年3月－スポーツ庁)

- ・スポーツは体力を向上させるもの
- ・「生きる力」を育み人格形成にも大きく関わるもの
- ・生涯にわたる健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となるもの

©2019 Daijiro Kaneko

一教育活動における部活動指導の意義



他のメンバーを尊重する気持ち

一緒に頑張ろうとする精神



ルールを守ること



気持ちを抑えながら
ゴールに向かうこと

©2019 Daijiro Kaneko

一教育活動における部活動指導の意義



他のメンバーを尊重する気持ち

一緒に頑張ろうとする精神

実践的な思考力や判断力は
社会に出てから役立つ能力



ルールを守ること



気持ちを抑えながら
ゴールに向かうこと

これらひとつひとつが
生徒の人格を形成し
豊かな人間性を創り出していく

©2019 Daijiro Kaneko

一教育活動における部活動指導の意義



誰かに強制されて取り組む活動ではない

©2019 Daijiro Kaneko

—教育活動における部活動指導の意義



- 生徒たちが自発的に取り組む活動
- ・強制的にやらせるのではなく
- ・「生徒主体の部活動の楽しさ」を体験できるような環境づくり

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE①「勝利のみにこだわったコーチングに疑問を持つ」

先生、優希って最近バスマス多くないですか？
県大会も近いんだし、もっときつめに指導したほうがいいんじゃないですか？
大会も近いのに、きつとあいつ練習が足りていないんだよ

気持ちはわかるけれど、
優希だってみんなが帰った後に一人残って練習したりしているんだよ。
それは認めてあげないと…

甘いですよ！
最後の大会なんだからもっと勝ちにこだわってくださいよ！！

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE①「勝利のみにこだわったコーチングに疑問を持つ」



スポーツをする上で
自然に発生すること

勝利に向けて努力を怠らないうえに、記録を求めること

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE①「勝利のみにこだわったコーチングに疑問を持つ」



勝利至上主義

- 「勝利にしか価値がない」「勝利こそ最大の成果」と考えるような“勝利至上主義”を生徒に押し付け、過剰な練習を強いたり、秀でた人間だけを特別扱いするような指導をしてはいけない



スポーツ障害



バーンアウト
(燃え尽き症候群)

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE①「勝利のみにこだわったコーチングに疑問を持つ」



技術の向上や、
記録・勝利ばかりを求める指導



豊かな学校生活を送れるように
支援するような指導

スポーツを通じて得られる様々な意義や価値を
生徒に伝えられる指導が求められる

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE①「勝利のみにこだわったコーチングに疑問を持つ」



生徒一人一人の
個性に応じたコーチング



どんなときでも平等に接する

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE①「勝利のみにこだわったコーチングに疑問を持つ」



豊かな人間性を育み、充実した学校生活を送るためのヒントになる

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE②「体調や変化を把握・予測した個々に即した指導」

大貴は最近、なかなか調子が上がってこない…
あいつ見ていないところでサボってるんじゃないのか。

ちょっと待ってください。
大貴君の様子や個性、体調の変化について把握していますか？

大貴の個性や体調？
うーん、正直よく分かっていませんね…

部活動を指導する際には、個々の変化や体調などを把握し
適切な指導をすることが重要です

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE②「体調や変化を把握・予測した個々に即した指導」

—CASE①「勝利のみにこだわったコーチングに疑問を持つ」

勝利至上主義

- 「勝利にしか価値がない」「勝利こそ最大の成果」と考えるような“勝利至上主義”を生徒に押し付け、過剰な練習を強いたり、秀でた人間だけを特別扱いするような指導をしてはいけません

スポーツ障害

バーアウト
(燃え尽き症候群)

©2019@Daijuro Kaneko

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE②「体調や変化を把握・予測した個々に即した指導」



成長期の生徒に即した配慮



スポーツ医学・科学の知見を踏まえた
合理的・科学的・効果的な指導

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE②「体調や変化を把握・予測した個々に即した指導」

成長期の生徒に即した配慮



【性ホルモンの影響による身体の変化】

女子：9～10歳頃から
男子：11～12歳頃から
身長や体重に急激な変化が現れる

第二性徴

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE②「体調や変化を把握・予測した個々に即した指導」

第二性徴



性の悩み



仲間

©2019 Daijuro Kaneko

—CASE②「体調や変化を把握・予測した個々に即した指導」

第二次性徴

生徒の心と身体の状態を知り
正しい情報と正しい知識で
指導に当たることが大切

©2019 Daijiro Kaneko

—CASE②「体調や変化を把握・予測した個々に即した指導」

スポーツ医学・科学の知見を踏まえた合理的・科学的・効果的な指導

【適切な休養日】

週2日以上
(平日・週末ともに1日ずつ)

【適切な活動量】

平日：2時間以内
休日：3時間以内

【長期休業中の注意】

ある程度長期の休養期を設定する

—まとめ

部活動は学校教育活動の一環である

部活動は人格形成や人間性を育み「生きる力」を身につける

勝利のみにこだわったコーチングとならないように意識する

体調や変化を把握・予測したうえで、
個々に応じた医科学的な知見に基づく指導を心がける

©2019 Daijiro Kaneko

■当日スライド資料（部活動におけるコーチングテクニック）

部活動における コーチングテクニックについて

©2019 Daijiro Kaneko

-「部活動におけるコーチングの基礎」より

学校教育活動の一環

-教育活動における部活動指導の意義

実践的な思考力や判断力は
社会に出てから役立つ能力

これらひとつひとつが
生徒の人格を形成し
豊かな人間性を磨き出していく

©2019 Daijiro Kaneko

-「部活動におけるコーチングの基礎」より

-CASE①「勝利のみにこだわったコーチングに疑問を持つ」

勝利主義

●「勝利ししか価値がない」「勝利こそ最大の成果」と考えるような「勝利至上主義」を
生徒に押し付け、過剰な練習量や厳しい叱責、
秀でた人間には特別扱いをするような指導をしてはいけない

スポーツ障害

バーンアウト
(燃え尽き症候群)

-CASE①「勝利のみにこだわったコーチングに疑問を持つ」

指導の向上や、
記録・勝利だけが目的な指導

豊かな学校生活を味わえるように
指導するよう指導

スポーツを通じて得られる様々な意義や価値を
生徒に伝えられる指導が求められる

©2019 Daijiro Kaneko

-「部活動におけるコーチングの基礎」より

-CASE②「体調や変化を把握・予測した個々に即した指導」

成長期の生体に関する指導

スポーツ医学・科学の知見を踏まえ
合理的・科学的・効果的な指導

-CASE②「体調や変化を把握・予測した個々に即した指導」

スポーツ医学・科学の知見を踏まえ合理的・科学的・効果的な指導

【適切な休養日】
週3日以上
(平日・週末を区別し1日ずつ)

【適切な活動量】
平日：2時間以内
休日：3時間以内

【長期休業中の注意】
ある程度長期の休業期を設定する

©2019 Daijiro Kaneko

-今日のねらい

部活動におけるコーチングのテクニックについて
理解を深めましょう

©2019 Daijiro Kaneko

-目次

- コーチングの心構え
- コーチに必要なコミュニケーション能力
- 中学期以降におけるコーチング
- 技術指導におけるコーチング

©2019 Daijiro Kaneko

コーチングの心構え

©2019 Daijiro Kaneko

ーコーチングの心構え



暴力

ハラスメント

©2019 Daijiro Kaneko

ーコーチングの心構え



グットコーチに向けた『7つの提言』

ー文部科学省「コーチング推進コンソーシアム」(2015)より

©2019 Daijiro Kaneko

ーコーチングの心構え

グットコーチに向けた『7つの提言』

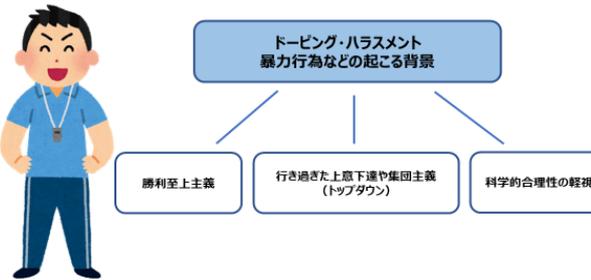


- ① 暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう。
- ② 自らの「人間力」を高めましょう。
- ③ 常に学び続けましょう。
- ④ プレーヤーのことを最優先に考えましょう。
- ⑤ 自立したプレーヤーを育てましょう。
- ⑥ 社会に開かれたコーチングに努めましょう。
- ⑦ コーチの社会的信頼を高めましょう。

©2019 Daijiro Kaneko

ーコーチングの心構え

暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう



ドーピング・ハラスメント
暴力行為などの起こる背景

勝利至上主義

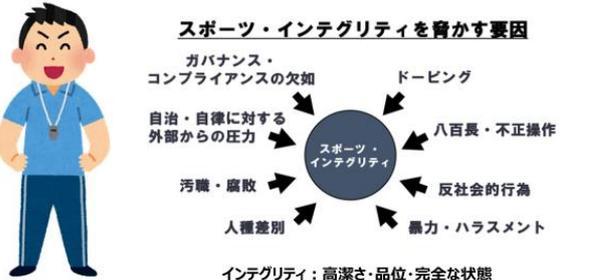
行き過ぎた上意下達や集団主義
(トップダウン)

科学的合理性の軽視

©2019 Daijiro Kaneko

ーコーチングの心構え

暴力やあらゆるハラスメントの根絶に全力を尽くしましょう



スポーツ・インテグリティを脅かす要因

ガバナンス・コンプライアンスの欠如

ドーピング

八百長・不正操作

反社会的行為

暴力・ハラスメント

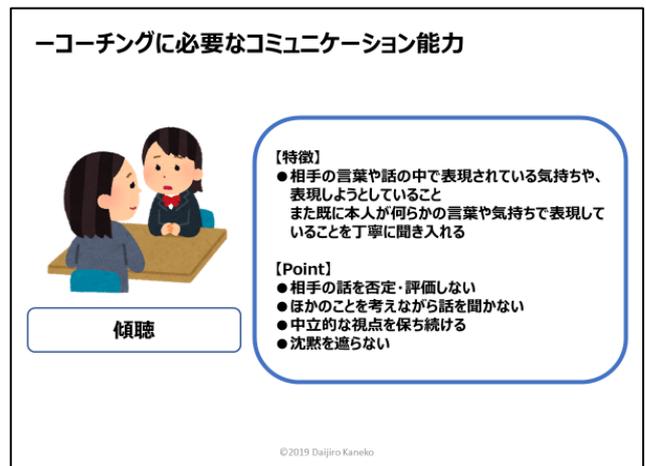
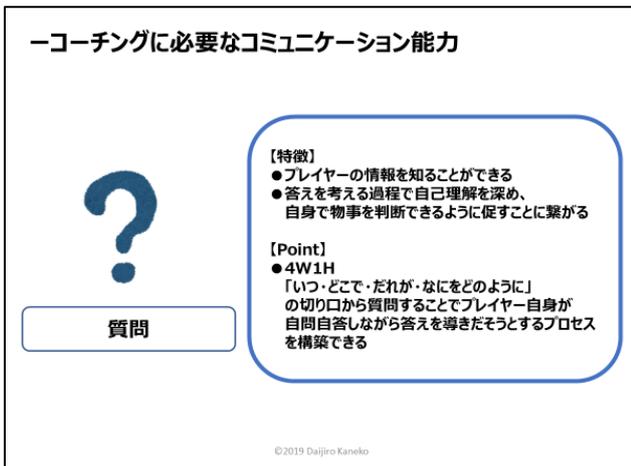
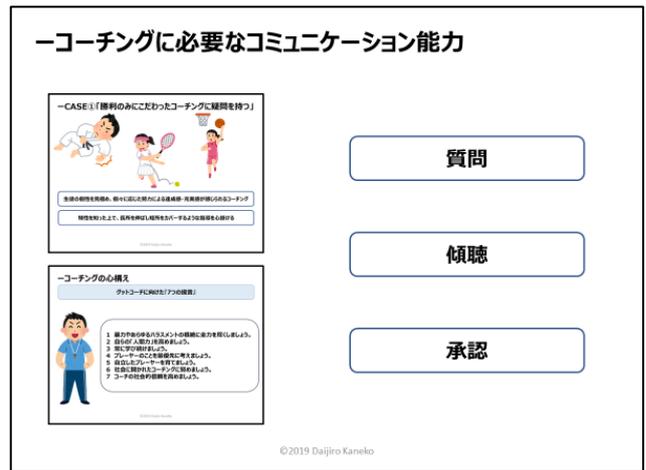
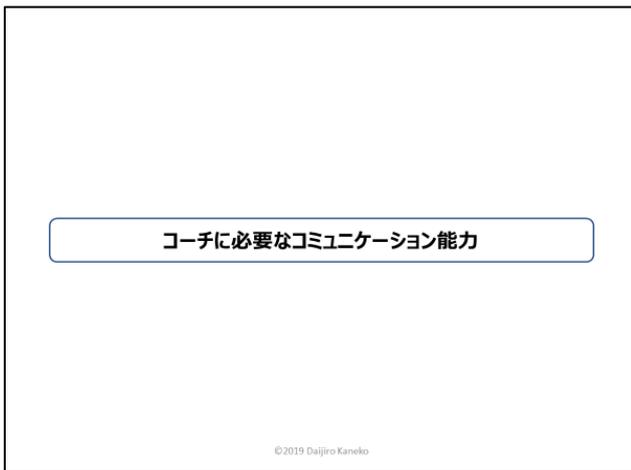
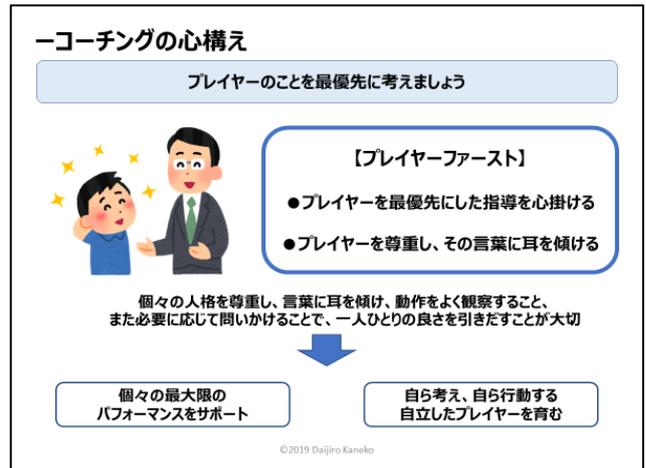
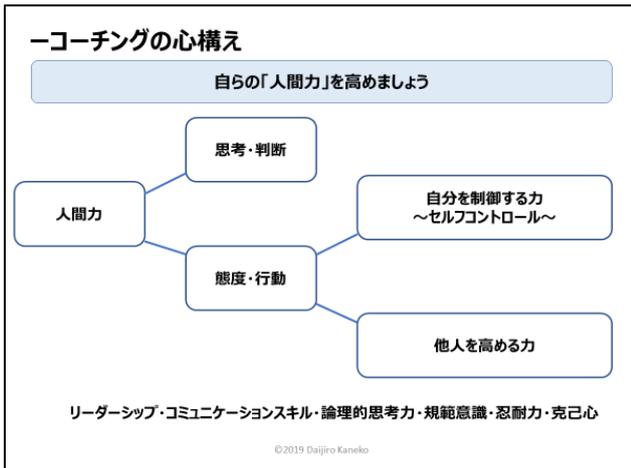
人種差別

汚職・腐敗

外部からの圧力

インテグリティ：高潔さ・品位・完全な状態

©2019 Daijiro Kaneko



ーコーチングに必要なコミュニケーション能力



承認

【特徴】

- 相手の発言や存在そのものを受け止め、表現するスキル
話の内容を受けて相手を励ましたりアドバイスを与えることは異なる

【Point】

- 同じ言葉を使って相手に返したり、必要に応じて内容を要約したりして、相手の気持ちを返すことが大切
Ex :) 「最近○○なんです」「○○なんです」
「それはつまり△△ということですか？」

©2019 Daijuro Kaneko

ーコーチングに必要なコミュニケーション能力

【フィードバック】

内容を基に相手に気付きを与えるスキル
(1) わたしメッセージの活用

【褒める】

具体的に迅速に結果ではなく、プロセスに注目する

【ファシリテーション】

集団でより大きく創造的な成果を支援するために支援する

質問

承認

傾聴

©2019 Daijuro Kaneko

中学期におけるコーチング

©2019 Daijuro Kaneko

ー中学期以降におけるコーチング



スキヤムの发育発達曲線

一般型

生殖型

一般型

生殖型

©2019 Daijuro Kaneko

ー中学期以降におけるコーチング

リンパ系の发育は落ち着き、神経系も大人と同等まで発達



経験に基づく抽象的な表現や、動きを見ただけで習得ができる「即座の習得」が難しい年代になる

これまでに習得した動きの質を高める指導や戦術に注意を向けた指導が効果的



©2019 Daijuro Kaneko

ー中学期以降におけるコーチング

骨格などの全体的形態や生殖器などの身体的な発達



無月経

疲労骨折

骨形成の妨げ

貧血症状

月経随伴症状

©2019 Daijuro Kaneko

技術指導におけるコーチング

©2019 Daijiro Kaneko

一技術指導におけるコーチング



視覚的指導

言語的指導

筋感的指導

©2019 Daijiro Kaneko

一技術指導におけるコーチング



視覚的指導

- 模範となる動作を実際に見せる方法
- 分かりやすく・正確に・ポイントを絞って伝える
- 視覚的教材の視聴も効果的
→ プレーヤーの動きや対戦相手の動作を録画してズームやスローモーションなどを交えながらFBや分析を行うなど

©2019 Daijiro Kaneko

一技術指導におけるコーチング



言語的指導

- 分かりやすく簡潔な説明を心がける
- 単純なものや部分的な動作説明に向いている
- 具体的に、数値を用いて説明する
- 指摘したい行動があれば時間を置かず指摘する
- 一度に複数の問題を指摘しない

比喩的表現

擬態語

リズムをつくる言葉

©2019 Daijiro Kaneko

一技術指導におけるコーチング



筋感的指導

- 筋肉や関節の動きを感じることで正しい動作や技術を習得させる方法

身体拘束法

直すべき癖や間違った動きを矯正する場合に効果的
ex.) スイングで脇を締める為にタオルを挟むなど

反応強制法
(ガイダンス法)

運動の動作やパターンをコントロールする際に有効
ex.) 構えで膝が伸びてしまう選手の膝の後ろをそっと押して移動を促すなど

©2019 Daijiro Kaneko

一まとめ

暴力やあらゆるハラスメントの根絶に向け
人間力を高め続けることが重要

質問・傾聴・承認のスキルを活かして自ら考える機会を与える

個々の成長段階・身体変化に合わせたコーチングを行う

技術指導においては、理解・習得させたい内容に合わせて指導内容を選択していく

©2019 Daijiro Kaneko

総括および将来の展望

■総括及び将来の展望

1) 本事業の取り組み総括

分科会①「開発」においてはイントロダクションを含む 52 ユニットの教材開発となった。2018 年度作成教材は、教育現場で働く上で必要な資質の醸成を目指し、基礎的な学習内容を多く盛り込んだ。対して 2019 年度作成教材は、前提として基礎を学んだ上での学習をイメージし、身体構造にかかわる内容や様々な背景を持った個への対応方法、またハラスメントの考え方など実践的な学習を盛り込んだ。

分科会②「普及」においては 2018 年度教材の再実証・2019 年度教材の部分実証を行った。2018 年度教材については仕様含めた全体の実証を行い、2019 年度教材については前述の教材作成イメージの検証を目指し専門的な意見の集約を中心に実施した。概ね肯定的な意見が集まった中で、安全管理の観点から運動指導者としてさらに深めておく必要のある知識や、科学的な指導を心掛けるうえで必要な情報など次年度教材開発に繋がる情報集約となった。2019 年度の受講者数は 3,099 名となり、事業累計の受講者数は 3,414 名となった。また、2020 年度事業内で取り組む教材の普及活動に向けた関連企業・団体への協力依頼についても稼働することができ、開発教材の実働に向けて下準備が進む一年となった。

2) 次年度事業について

分科会①「開発」においては継続した e-ラーニング教材の開発と、対面講座の開発についての検討を進める。また 2019 年度作成教材に関する意見集約から改修ポイントを抽出し、教材としての精度向上に向け改修を実施する。

分科会②「普及」においては 2019 年教材の継続した実証を進めるとともに、2020 作成教材の実証を同時進行で行う。2020 年度事業終了段階での累計受講者数は 5,000 名を目標としている。また、実証とは別途で普及活動へも注力していく。特に研修を行っている都道府県・市区町村の教育委員会さまへの事業及び教材の説明及び情報交換を積極的に行っていきたい。既に人材バンク構想含め、部活動指導のアウトソーシングを推進している自治体においても、取り組みを進めている上で感じる課題などをヒアリングし、本事業がフォローできるポイントなどの発見に繋げていきたいと考えている。

東京五輪を契機とした様々なレガシープログラムの存在もあり、よりスポーツが日常生活にとけ込むことが想定される今後において、本事業が提供するリカレント教育を通じて教員の働き方改革だけでなく、アスリートのデュアルキャリアとしての新たな選択肢や、トレーナー・インストラクターといった身体の専門家が活躍する新たなステージとしての可能性の創出など、部活動へのアスリート・元アスリートの介入の支援、また高度専門人材の介入による生徒たちの部活動環境の充実へと繋がるような発展を目指していきたい。

成果報告会当日資料

文部科学省
令和元年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」

部活動指導員養成事業

成果報告会

2020年1月23日（木）
13:00-15:00

1

会次第

- 1 理事長挨拶
- 2 来賓挨拶
- 3 本年度の取り組み概要
- 4 分科会①「開発」報告
- 5 分科会②「普及」報告
- 6 今後の事業展開について
- 7 識者評価
- 8 質疑応答・意見交換

2

1. 理事長挨拶

学校法人三幸学園 理事長

昼間 一彦

3

2. 来賓挨拶

文部科学省 総合教育政策局
生涯学習推進課 専修学校教育振興室 室長補佐

宮本 二郎 様

4

3. 今年度の取り組み

学校法人三幸学園
東京リゾート&スポーツ専門学校

兼子 大次郎

5

事業主体について



学校法人三幸学園（スポーツ分野）

- ・リゾート&スポーツ専門学校（仙台・千葉・東京・横浜・名古屋・大阪・広島・福岡）
- ・スポーツ&メディカル専門学校（札幌）
- ・キッズ大陸（さいたま市野・あだち北千住・よこはま中川・しようなん辻堂）

【事前調査】

- 社会人の学び直しにおける教材の在り方について
→教材ハード面を設定する上での方向性策定
- 既存の「部活動指導員養成研修」に関する調査
→作成する教材の分野（内容）策定

【教材作成】

- 教育・安全管理・指導法・マネジメントの4分野の教材を作成
→47ユニットを作成

【普及・検証】

- 法人内部を中心に315名に検証を実施
- 市区町村教育委員会への教材紹介及び成果報告の実施

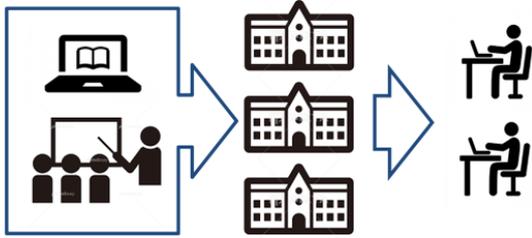
6

本事業の目的①

本事業で開発した
Eラーニング教材・研修

他の専修学校へ普及

社会人学び直しの
機会拡大



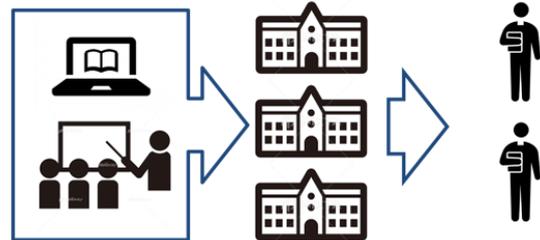
7

本事業の目的②

本事業で開発した
Eラーニング教材・研修

小・中学校
高等学校の部活動現場へ派遣

教員の働き方改革



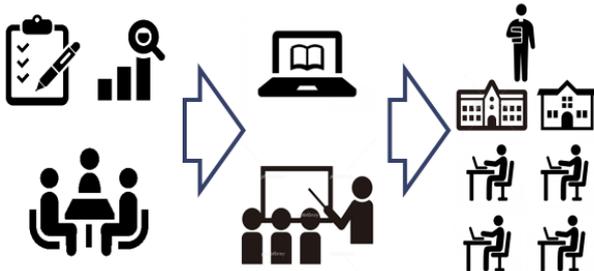
8

3か年事業の全体像

事前情報収集（保育実績含）
教材カリキュラム開発

Eラーニング教材・研修
開発・効果検証

教材の公開による
他の専修学校での展開
自治体への学び直し機会提供



9

今年度の事業活動

教材カリキュラム開発
改修・新規開発



10

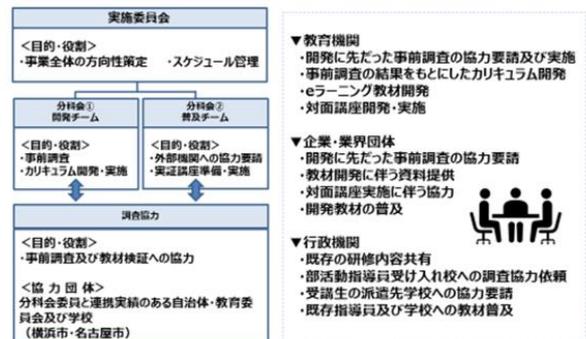
今年度の事業活動

教材検証・普及



11

事業実施体制



12

一昨年度の取り組み①「社会人の学び直しに関する事前調査」

社会人学び直しにおける教材仕様について

保育分野の調査・実証実績
—1ユニット5分の評価—

社会人の学び直しにおける1ユニットあたり5分での適切さ

「1ユニット5分程度の教材」
→隙間時間を有効活用できる量

保育分野の調査・実証実績より
Q: 今後、どのような教材があればよいと思いますか

①より具体的な場面を想定した教材
・実際に起こり得る様々なシチュエーションの対応例などが知りたい
・今回と同じ題材で、もう少し具体的な内容のあるものがさらに理解が深まる

②職員との関わり方の教材
・先着後輩との関わり方
・職員同士の連携
・後輩との関わり、関係先生と後輩の「イブ」づくり
・後輩指導の仕方について、例えば、仕事に対する向き合い方が不真面目な後輩、伝えたいことが伝わらない後輩などに対する対応の仕方。また、そういう後輩への仕事の振り分けなど。

具体例を盛り込んだ
ケーススタディ

部活動・学校現場に関する
連携や体制の理解

「教材内容①」
→具体例に関する内容や、実際の現場における連携など

19

一昨年度の取り組み①「社会人の学び直しに関する事前調査」

社会人学び直しにおける教材仕様について

保育分野の調査・実証実績より
Q: 今後、どのような教材があればよいと思いますか

③「主任」の役割を取り上げた教材
・主任の役割や保育内容、子どもの発達や心理について
・主任としての役割

部活動指導員の役割
携わる生徒の発達や心理の理解

「教材内容②」
→指導員としての役割や関わる学生の心理など実践的な内容

20

一昨年度の取り組み①「社会人の学び直し講座に関する事前調査」

教材仕様の決定

①実践的な内容
→ケーススタディを交えた実践的な内容を中心とする教材とする

②教材の流れ
→導入からまとめまでシーン想定をしながら進める（次スライド）

③受講における費用軽減
→永続的に無償での公開とする

④受講にかかる時間負担軽減
→1つのユニットは5分を目安とし、PCだけでなくスマートフォンやタブレットなど様々なデバイスからもアクセスできる教材

21

一昨年度の取り組み①「社会人の学び直し講座に関する事前調査」

教材仕様の決定

画面仕様 ※内容は例です

22

一昨年度の取り組み②「部活動指導員養成に関する事前調査」

教材作成分野の決定

本事業における分野カテゴリ

指導法

・個の発達段階に応じた指導法を身に付ける
Ex: 「スポーツにおけるコーチング」
「スポーツ指導の基本原則」
「スポーツにおける勝力根絶に向けて」

本事業における分野カテゴリ

マネジメント

・公教育におけるマネジメントスキルを身に付ける
Ex: 「学校における組織体制」
「部活動指導員の具体的業務」
「部活動組織のマネジメント」

24

一本年度の取り組み①「作成プログラムの改修」

改修ポイントの決定

「2018年作成プログラムの検証アンケート結果より」

場面設定がよりイメージできるような工夫が欲しい
→冒頭シーン想定の部分にもナレーションを追加

より深く学べる導きが欲しい
→サイト内に表記していた参考文献を映像内へ挿入

その他表現や記載に関する軽微な修正

25

一本年度の取り組み①「作成プログラムの改修」

改修の実施

冒頭のシーン想定 of 工夫
やり取りにもナレーションを追加

参考文献を映像内に記載

参考文献

高橋 晋一 著
【基礎から学ぶ「メンタルトレーニング」
（ベースボールで応用） / 2008年】

池本 賢哉 著
【これから学ぶスポーツ心理学（改訂版）
（大塚雅彦監修） / 2008年 3月】

26

分科会①「開発」の目的・役割

プログラム改修

プログラム開発

27

一本年度の取り組み②「新規プログラムの作成」

作成項目の決定

「2018年作成プログラムの検証アンケート結果より」

- 現代に見合った指導について学びたい
- 内発的動機づけの成功事例などを学びたい
- 保護者連携の上での注意事項などを学びたい
- 実際に起こった出来事への対応方法などを学びたい

27

一本年度の取り組み②「新規プログラムの作成」

教育：14ユニット

指導法：23ユニット

安全管理：14ユニット

マネジメント：作成無し

+イントロダクションの全52ユニットを作成
(2018-2019) 累計作成：98ユニット

28

一本年度の取り組み②「新規プログラムの作成」

教育：14ユニット

- 部活動指導とハラスメント（6ユニット）
「部活動指導にみられるハラスメントの実態」
「部活動指導においてハラスメントを発生させないために」
「部活動でのハラスメントが生徒に与える影響」など
- 部活動指導とメンタルマネジメント（8ユニット）
「メンタルマネジメントと競技不安」
「モチベーションを高める方法①原因帰属理論」
「競技不安を低める方法①森田療法の活用」など

29

一本年度の取り組み②「新規プログラムの作成」

指導法：23ユニット

- 部活動指導とコーチングテクニック（8ユニット）
「コーチに必要なコミュニケーション能力」
「医・科学現場の知見の反映」
「中学期以降におけるコーチング」など
- トレーニング基礎（7ユニット）
「トレーニングの原理・原則」
「トレーニング処方の方考え方」
「トレーニングと疲労およびその回復」など
- ジュニア期における身体構造の基礎（8ユニット）
「機能解剖」
「発育発達期の身体的特徴」
「女性競技者の身体的特徴」など

30

一本年度の取り組み②「新規プログラムの作成」

安全管理：14ユニット

- 救命救急処置（3ユニット）
「救助者の自覚」
「手当の基本」
「現場での留意点」
- 一次救命処置（6ユニット）
「心肺蘇生法の重要性」
「AEDを用いた除細動と心肺蘇生法」
「熱中症対応」など
- けがに対する手当（8ユニット）
「止血」
「骨折」
「RICE処置」など

31

一本年度の取り組み②「新規プログラムの作成」

作成教材

「部活動でのハラスメントが生徒に与える影響」

「競技不安を低める方法-メンタルトレーニング-」

「発達発達期の身体的特徴」

けがに対する手当「RICE処置」

33

2019年度分科会①「開発」報告まとめ

- 作成プログラムの改修
 - ・冒頭のシーン連想部分にナレーションを追加
→より場面のイメージを湧きやすくするため
 - ・参考文献を映像内へ挿入
→より深く学べるための導き
- 新規プログラムの作成
 - ・教育：14ユニット
 - ・指導法：23ユニット
 - ・安全管理：14ユニット
 - ・2018-2019年累計作成教材：98ユニット（イントロダクション含む）

33

5. 分科会②「普及」報告

学校法人三幸学園
東京リゾート&スポーツ専門学校 統括部門長
高岡 昌弘

34

分科会②「普及」委員一覧

氏名	所属（学校・団体・企業）	職名
岩河 健介	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	専務理事
井原 敦	一般社団法人 日本野球機構	事務局長
嶋 理恵子	一般社団法人 日本野球機構	野球運営本部 課長
石塚 大輔	スポーツターミナル株式会社	取締役
松村 剛	一般社団法人 フィットネス産業協会	会員事業統括マネージャー
早坂 達	札幌スポーツ&メディカル専門学校	副校長
寺澤 正典	仙台リゾート&スポーツ専門学校	副校長
高岡 昌弘	東京リゾート&スポーツ専門学校	副校長
斎藤 政臣	横浜リゾート&スポーツ専門学校	副校長
和田 忍	名古屋リゾート&スポーツ専門学校	副校長
遊邊 慧	大阪リゾート&スポーツ専門学校	副校長
會田 隆太	福岡リゾート&スポーツ専門学校	副校長
西條 康介	学校法人三幸学園	部門長
兼子 大次郎	学校法人三幸学園	主任

35

分科会②「普及」の目的・役割

外部機関への協力要請

実証講座準備・実施

36

分科会②「普及」の目的・役割

外部機関への協力要請

実証講座準備・実施

37

一本年度の取り組み①「外部機関への協力要請」

【自治体教育委員会】

名古屋市教育委員会
横浜市教育委員会

【競技団体】

日本ラグビーフットボール協会
日本野球機構

【スポーツ関連団体】

日本フィットネス産業協会
スポーツデータバンク株式会社
株式会社ファクトリージャパングループ

【幼児スポーツ】

三幸学園 キッズ大陸

【スポーツ指導者養成】

三幸学園
リゾート&スポーツ専門学校
スポーツ&メディカル専門学校

38

分科会②「普及」の目的・役割

外部機関への協力要請

実証講座準備・実施

39

分科会②「普及」の目的・役割

外部機関への協力要請

実証講座準備・実施

40

一本年度の取り組み②「実証講座準備・実施」

2019年度実証概要

□対象

・三幸学園リゾート&スポーツ専門学校・スポーツ&メディカル専門学校在校生・教員
・検証協力依頼企業・団体
(日本フィットネス産業協会・スポーツデータバンク株式会社・株式会社FJG 他)

□時期

2019年12月～2020年1月

□方法

e-ラーニング教材受講後にWEBアンケートに回答※三幸学園在校生はクラスごとに教室での一括受講
1人当たり1～2ユニットを目安に割り当て

□回答数

総回答数：2976件 累計：3291件
※2019年度終了時点目標数値：1500件

□設問

- (1) 受講対象(属性)を問う設問
- (2) 教材仕様に関する設問
- (3) 教材内容に関する設問

41

一本年度の取り組み②「実証講座準備・実施」

□受講対象(属性)を問う設問

- ①これまでの運動指導歴について教えてください
(自由記述)

□教材仕様に関する設問

- ①1つのコンテンツの情報量はいかがでしたか
(適切・多い・やや多い・やや少ない・少ない)
- ②上記設問において「多い」もしくは「少ない」を選択された方にお聞きします。
具体的にどのくらいの情報量が適切だと感じますか
(自由記述)

□教材内容に関する設問

- ①部活動現場で役に立ちそうな情報が得られましたか
(そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない)
- ②上記設問において「そう思う」「ややそう思う」を選択された方にお聞きします。
具体的にどのような部分が役に立つと感じましたか
(自由記述)

42

一本年度の取り組み②「実証講座準備・実施」

- ③得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか
(そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない)
- ④部活動指導員としての素地が得られる実感はありましたか
(そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない)
- ⑤プログラム内容はタイトルに対して適切なものでしたか
(そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない)
- ⑥更に学習してみようという意欲は湧きましたか
(そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない)
- ⑦コンテンツ内容は随時更新予定です。今後も利用したいですか
(そう思う・ややそう思う・ややそう思わない・そう思わない)
- ⑧教材において不足している内容、他に得ることが出来たらよいと思う情報はありますか
(記述式)

43

一本年度の取り組み②「実証講座準備・実施」

- ⑨今後どのような内容の教材があればよいと思いますか。具体的に教えてください。
(記述式)
- ⑩プログラム全般に関して良いところ、改善すべきところ(わかり難いと感じたところ)など自由に記述してください
(記述式)

全13問

44

一本年度の取り組み②「実証講座準備・実施」

2019年度実証概要

- 実証講座実施手配
 - ・アンケート項目
 - ・分科会②「普及」において事業概要、趣旨の説明と協力の依頼
 - ・関係団体への事業概要、趣旨の説明と協力の依頼
 - ・法人内「リゾート&スポーツ専門学校」全校に実証説明および依頼
- 実証実施体制
 - ・各団体用必要アカウントの発行及び受講手順の案内
- 実証期間中
 - ・随時間問い合わせ対応(事務局)
 - ・受講団体への所感ヒアリング(事務局)

45

一本年度の取り組み②「実証講座準備・実施」

2019年度実証結果

「1つのコンテンツの情報量はいかがでしたか」

回答	割合
適切	59%
やや多い	19%
やや少ない	15%
多い	4%
少ない	3%

46

一本年度の取り組み②「実証講座準備・実施」

2019年度実証結果

「部活動現場で役に立ちそうな情報は得られましたか」

回答	割合
そう思う	33%
ややそう思う	29%
ややそう思わない	29%
そう思わない	9%

■ 肯定的な意見

- ・顧問の助けになると感じた
- ・改めて重要なことを理解ができた
- ・自身が当時指導された意味がよく分かった
- ・学校の活動の一環という意識を持った

■ 改善をすべき点

- ・教科書的な点と現場のリアルの差をどう埋めるか
- ・少し簡単でももう少し詳しく知りたい
- ・直接的な生徒への影響について詳しく知りたい

47

一本年度の取り組み②「実証講座準備・実施」

2019年度実証結果

「得た知識は今後のキャリア形成に役立ちそうですか」

回答	割合
そう思う	44%
ややそう思う	42%
ややそう思わない	9%
そう思わない	5%

「部活動指導員としての素地が得られる実感はありましたか」

回答	割合
そう思う	39%
ややそう思う	43%
ややそう思わない	12%
そう思わない	6%

48

一本年度の取り組み②「実証講座準備・実施」

2019年度実証結果

「教材において不足している内容、他に得ることが出来たら良いと思う情報はありますか」

- ・ストレッチなどの実践的な内容
- ・実際の生徒や教員からの声
- ・映像での具体例
- ・待遇など金銭的な内容も必要なのではないか

「今後どのような内容の教材があればよいと思いますか」

- ・実際のトレーニングメニューを組み立てる順序
- ・疾病の様子の写真など
- ・指導者としての社会的責任をより詳しく
- ・現代の小中学生の部活動に対する意識

49

一本年度の取り組み②「実証講座準備・実施」

2019年度実証結果

「プログラム全般に関して良いところ、改善すべきところ（わかり難いと感じたところ）など自由に記述してください」

- 肯定的な意見
 - ・イラスト+短文の説明の部分が良かった
 - ・動画は自分のペースで止めながら受講できて便利
 - ・個人の特性を捉えた内容などを学んでみたいと思った
 - ・項目ごとに分かれていて理解がしやすかった
 - ・実践的な内容が増えてきた
 - ・より高度な内容を展開していく上での構成や表現は工夫が必要
- 改善をすべき点
 - ・全国での活動や取り組み事例などを把握したい
 - ・難しい言葉（専門的なもの）は少しかみ砕いた説明が必要なのではないか
 - ・少し淡々と進んでいる感じを受けた
 - ・一つの画面でコメント（音声）が長く感じたためポイントはテキストで記載するなどしてはどうか
 - ・専門的な内容はどこまでを理解させるかの線引き（見極め）が肝心
 - ・トレンドや注目の高い内容についてどの程度改修をするかも考える必要がある

50

2019年度分科会②「普及」報告まとめ

□ 外部機関への協力要請

- ・参画委員関連団体や連携団体への事業周知と協力要請の実施（教育委員会・中央競技団体・フィットネス関連団体など）
- ・実証外での普及活動準備（プレスリリース・DMなど）

□ 実施講座準備・実施

- ・e-ラーニング受講とWEBアンケートを実施
- ・総回答数：2976名
- ・2018-2019年累計回答数：3291名
- ・次年度「開発」の方向性決定に向けた情報集約

51

6. 今後の事業展開について

学校法人三幸学園
東京リゾート&スポーツ専門学校

兼子 大次郎

52

今年度事業の総括

事前情報収集（保育実績含）・教材カリキュラム開発

3分野52ユニットの開発

実証講座準備・依頼

2976名の受講 累計：3291名の受講者

53

■ 2019年度実績

<養成学習プログラム>

- 教育：14ユニット
- 安全管理：14ユニット
- 指導法：23ユニット
- インタラクティブ：1ユニット

<普及先・受講者>

教育委員会・関連団体
全国リゾート&スポーツ専門学校

2019年度終了段階
受講者数(累計)：3,291名
Cf. 2018年度採択段階：900名(累計)
Cf. 2018年度成果報告時：1,500名(累計)

■ 2020年度目標

<養成学習プログラム>

- 教育・指導法・マネジメント・安全管理

<普及先・受講者>

教育委員会・関連団体
全国リゾート&スポーツ専門学校

2020年度終了段階
受講者数(累計)：5,000名
Cf. 2018年度採択段階：2,500名(累計)
Cf. 2018年度成果報告時：3,500名(累計)

54

■ 2020年度

□ 検証外普及活動の実施

→ 検証以外での普及活動を各中央競技団体や、協力団体と連携して展開

Ex:) 公認登録指導者へのDM発送など

【ランディングページの活用】

<https://www.learningware.jp/bukatsu/lesson/contents/html/index.html#participants>

□ 作成教材の改修

□ 対面講座の検討

→ コースの調査や作成プログラムと連動して実施できる内容の検討



55

7. 識者評価

明治学院大学
学長特別補佐(戦略担当) 産学連携プロデューサー

伊藤 健二 様

56

8. 質疑応答・意見交換

57

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、
学校法人三幸学園 東京リゾート＆スポーツ専門学校が実施した
2019年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」の成果をとりまとめたものです。

2019年度 文部科学省委託事業
専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト
部活動指導員養成事業

成 果 報 告 書

2019年2月28日印刷
学校法人三幸学園 東京リゾート＆スポーツ専門学校

〒113-0033
東京都文京区本郷4-12-6